



第五幕

第五幕第一場

《「サンダーボルト」艦長日誌補足 副長記載》

安保理の会議場とのリンクが突然の切断。原因は不明である。出席していたアリスター艦長の投射エゴ（人格）は回収不能となり、ハウエル大使との連絡も途絶えたままである。艦長自身は予期せぬリンク切れによって生じたショックの診断を受けているが、あと一時間は執務困難であろう。

奇妙なことに、国連軍総司令部からはアリスター艦長の引渡しを命令される。曰く、艦長にはハウエル大使殺害の嫌疑あり、尋問のため身柄を地球側に引き渡せとのこと。当方が説明を求めるやいなや、船団に同行していたエクストロピアのアステロイド艦四隻が当艦に対して照準を定めたのである。国連軍の通達によれば、従わざる場合はティターンズ協力者として撃沈するとのこと。急ぎ本国に打電したが、どんなに早くとも返信は半日後になる。当艦は現状のまま地球を周回中である。

ありがたいことに敵は、そう国連軍は事実上の敵となったのであるが、この新たな敵は本来の敵、ティターンズとの戦闘準備で忙しく、本格的にこちらとやりあうつもりはないようである。他船団の護衛にあたった軍艦が続々と飛び去っていく。無電封鎖のせいで国連軍の動きはさっぱり読めないが、勝つてくれることを期待するのみである。

- イム センサー班。こちらを包囲している護衛艦の動きはどうか。それからラグランジュ点に進攻中の国連軍は？
- センサー班 護衛艦は一、二〇〇秒前と変わりなし。連中のニュートリノ出力は低レベル。国連軍は推定七〇秒以内にティターンズとの交戦可能域に進入の模様。
- イム まだ撃つ気なし、か。戦術班。こちらからは撃つなよ。攻撃兵器群は待機モード。
- 戦術班 了解。
- イム 通信班。向こうのネットワークへの侵入状況はどうか。兵器システムは無理でもセンサーを攪乱できないか。せめて国連軍との交信内容を傍受できればいい。
- 通信班 連中のファイアーウォールをまだ突破できません。あと二、八〇〇秒。
- イム わかった。パイロット、コース設定はどうか。
- パイロット 月スイングバイコース、大気圏バウンドコース、算出完了。いつでもいけます。
- イム 了解。緊急回避ソフトを走らせておけ。戦闘機隊、応答せよ。
- アルアミラル アミラル受信。全機、出撃準備完了。後で話したいことがある。
- イム イム了解。では後で。エンジニア、応答せよ。
- エンジニア こちらエンジニア。艦橋どうぞ。
- イム こちらイムだ。ドライブの暖気はどうか。
- エンジニア 全ドライブ準備完了。いつでも全力前進いけます。
- イム 了解。そのまま待機してくれ。



エンジニア 了解。

イム 医療室。こちらイム。艦長の容態はどうであるか。

医療室 依然として意識混濁。カウンセラーが精神外科手術中です。

イム わかった。回復次第、すぐに連絡くれ。

医療室 了解。

イム アルサン、状況は御覧のとおり。私は副長として、国連軍はタイタンの敵対勢力になったと判断する。軍事オンブズマンの見解をうかがいたいものでありますな。

AGI アルサン 《これはしかたありませんね(-_-)。ではタイタン市民共同体 (Plurality) ¹を代表して、国連軍との交戦を許可します。でも先制攻撃はさけてください(*・人・*)》(と無音メッセージ)

イム 了解であります、オンブズマン閣下。

(乗員一同、ひそひそ話し)

乗員一同 艦長が大使をバラすって、そんなのありかヨ？

あたしー〇,〇〇〇クローネ賭けていいよ、きっと地球人なんかやったのさ。どうかなあ。ハイパーコープの陰謀じゃねえのか？

イム おいそこ、私語を慎め！……私も気持ちは同じである。しかし憶測に意義はない。艦長が復帰されるまで耐えるのが我らの職務。いいな。

乗員一同 了解！

(場面は医療室。明るい部屋、四つの簡易ベット、最新式の医療器具らしきもの多数。アリスター、半裸でベッドに。頭や腕に小型器具が取り付けられている。数名のスタッフ、その周りを取り巻く。カレンと孫、やや離れて心配そうに見つめている)

カウンセラー 艦長、艦長。最後の光景、憶えていますか？

アリスター ウウン、目が回る……。会議場、演説、ライト、熱気、叫び声……。

医師X 前頭葉への刺激を四マイクロアンペア強化。海馬に注意して。

助手Y 了解。

カウンセラー 艦長、もう一度記憶テストをします。あなたのフルネームをお答えください。

アリスター ダン、ダン＝アリスターだ。ああと、ダンヴィッチ、ダニール……。

医師X 短期と長期の記憶が混交しているようね。ブローカー言語野の電磁気分布は？

助手Z ノルアドレナリンの分泌量、現在……。

孫 大丈夫かなあ、艦長さん。あんなブツとい針刺されてよう。痛そうだなあ。

カレン 大丈夫、ダンはずり立ち直る。あの人、強いんだから。(とアリスターを見る)

孫 カレン……。 (とカレンを仰ぎ見る)

カレン 大丈夫……。

アリスター ダーマ、ダルマ、ダルマティア……。

(場面暗転。ここからの会話は音声のみ。イムとアルアミラルが話す)

*1 *Eclipse Phase Rulebook*, p.79 にある” Plurality” とは政治学、社会学の専門用語でもあり、邦訳すれば「多元性」「複数性」。政治思想である「多元主義」(Pluralism) に基づくこの用語を、本作品では「多元共同体」と訳す。



イム 少佐。こちらイム。これは独立回線になっている。何だ。

アルアミラル 副長。さっき上から帰国命令が出た。

イム こちらが先ほど中継した暗号通信であるな。

アルアミラル ああ。そちらに知らせるなどあったが、どうもあんたら、完全に敵扱いのようだ。

イム であろうな、想像はつく。それで貴官はどうする。

アルアミラル 俺達はティターンズと戦うために来た。あんたらはティターンズじゃない。

イム 君らロシアの敵にはなるかもしれんぞ。

アルアミラル あいにく俺は命令を讀了していない。だからあんたらは敵じゃない、まだな。

イム 無理はするな。何なら貴官らだけ発進させてもいい。そのまま国に帰れ。

アルアミラル できればオサラバしたいが、周りのエスコートが許してくれんだろう。空母が戦闘機隊を出せば攻撃の意図ありと見なされるのがオチだ。

イム 貴官もそう思うのか。どうやら仲良く罫にはまったようであるな。

アルアミラル ああ。異端者はまとめて始末、とそんなところだろう。

イム では異端同士、この窮地を切り抜ける方法を考えよう。

アルアミラル だが妙だな。こっちに珍宝を向けてるあの石ころ、あの程度、おたくの火力で即昇天といけるんじゃないのか。

イム 確かにな。あのクラスならば、倍の数はないと当艦とは互角に撃ちあえないはずである。たぶんそれ込みの仕掛けであろうな。

アルアミラル 先に撃たせてこっちを悪者にするってか。賭けてもいいが、多分どこかの大手メディアがこっちにカメラを向けてるぞ。

イム それはありそうであるな。センサーは当艦への迎撃コースをとる軍艦を探知していない。おそらく監視役は捨て駒であろうな。

アルアミラル まったくサタン的な罫だ。でどうする。国連だって馬鹿じゃあるまい、土星からの応答が来る前に片づけようとするだろ。

イム いま少し待とう。状況好転に賭けるつもりである。

アルアミラル アリスターの回復か。それもいいが、時間が経つとやっかいだぞ。

イム 艦長のこともあるが、ラグランジュ点の戦闘を観察したい。事情があるのだ。

アルアミラル ああ。ヤツに聞いたぞ。太陽系を物見遊山とはなかなか剛毅だな。

イム ……そこまで知っているなら、それでどうする。このままでは貴官らは国に帰れん。当艦さえ離れられん。家族の元に戻れんぞ。

アルアミラル インシャラ・アッラー。

イム 楽天的であるな。貴官の部下はどうする。

アルアミラル 中隊全員とさっき相談した。全員ここに残る。少なくとも決着がつくまでな。

イム 分かった。戦闘機隊の指揮は引きつづき貴官に任せる。いよいよの時は頼むぞ。

アルアミラル 了解した。お前らが天国の門で立ち往生していたらアッラーにとりなしてやる。

イム それはありがたい。その門を煉獄への入り口と取り違えなければいいが。

アルアミラル 幸いイスラームに煉獄はない。お前ら啓典の民はいつも大げさだな。

イム それは主の教えに忠実な……ちょっと待った、BBCとCBSから速報が。

アルアミラル ほう早い。これで俺達は地球の反逆児というわけか。やれやれだな。



イム ……いや、我らではない。ティターンズとの交戦である。そっちに回そう。

(ニュース速報が音声と字幕の両方で流れる)

ニュース 《本日早朝、国連軍の艦隊は、国連のケント高等弁務官の指揮のもと、地球
=月ラグランジュ点を突如占拠したティターンズとの戦闘に突入します。緒戦こ
そ守り一方にみられた国連軍でしたが、船団護衛という名目のもと、反撃の好機を
うかがっていたのです。ケント艦隊はラグランジュ点を奪回後、おそらくは地球
各地を徘徊する敵勢力を掃討……》

(場面は艦橋に戻る。イムと乗員、テキパキと対応)

イム センサー班。第一にラグランジュ点の状況を追跡。第二に監視艦に動きはない
か、大気圏内から襲撃ないか、パッシブモードでチェック。

センサー班 了解。大気圏には動きなし。

通信班 副長。国連軍の無線交信を傍受。解説します。オーディオのみ。

イム 流してくれ。

(艦橋に音声流れる。イムと乗員、その声に聞き入る)

国連軍 《タイコンデロガ、ヴァリアント、位置につけ》

《了解》《了解》

《QEIVより旗艦へ。敵は集結している。くり返す、敵全ユニットは集結中》

《旗艦アイオワより全ユニットへ。攻撃準備。目標、方位〇〇八、マーク……》

(何か金属板を勢いよく引っかくような強烈な騒音が流れる。その後、かわいらしい女の子の声のみ流れる)

女の子の声 《みなさん～、どうか聞いてください。私たち、ティターンズですう。
ティターンズはみんなの味方、平和の使者っ。お願い、お願い、降伏して
くださいっ。抵抗は無駄ですよ。私たち、ティターンズですう。ティタ
ーンズはみんなの味方、平和の使者っ。お願い、お願い、降伏してくださ
いっ。抵抗は無駄ですよ。ご清聴、ありがとですう～。今後もよろしく！》

(女性の声、突然終わる)

国連軍 《旗艦より全ユニットへ。攻撃を許可。くり返す。攻撃を許可。兵器使用自由》

《なんだ、あのデカぶつは。こんな話、聞いてないぞ》

《アンタレスよりEU戦隊へ。ミサイル警報。レーザー弾幕を張れ！ 敵ミサイル
を阻止す、アアッ！……》

《こちらマーストリヒト。アンタレスは行動不能。指揮を引き継ぐ。減速して散
開せよ、くり返す……》

《こちらアズテク。敵艦は戦闘機射出の様。くり返す、敵戦闘機群に注意……》

《旗艦より全ユニット。敵超大型艦を集中砲撃せよ。くり返す、敵大型艦に攻撃
続……》



《鎮海より定海。通信回線をチェック。ウィルスが！A 到 6 措・・cB i C ム o 丞
€……私たち、ティターンズですう。みんなの味方、平和の使者……》
《こちらオスカー、エンジン被弾す。僚艦、曳航頼む、曳航頼む！》
《カイロよりラムセスに告ぐ。L 5 へ離脱するぞ。敵機に注意……》
《こちらラムセス。敵戦闘機に取り付かれた。乗っ取られる！ 誰か撃って…f一
タ澄€・・磨くb シュ・草 s /……私たち、ティターンズ……》
《旗艦より全ユニットへ。敵の大型レールガンに注意せよ。回避に専念せよ》
《こちらシヴァ。撃つな、鎮海。当艦は味方だ。くり返す、誤射するな、やめろ！
ウワアア！……》
《くそっ、レーザーが効かない！ 命中してるはずだろ》
《こちらナヒーモフ。コンピュータ制御不能！ 初期化をnk!2x√・Bn!蛟……
bk・÷u 摩……私たち、ティターンズですう。みんなの味方……》
《ナジブラよりシャカ。後退するな、戦列に留まれ。後退を禁ずる……》
《こちらアイオワ。当艦は転進する。全艦援護せよ……》
《僚艦から撃たれている！ アイオワ、おいアイオワ、どうなってるんだ……》
《お待ちを。お待ちを、司令官どの！ 味方を見捨てるわけには……》
《助けてくれ、誰か助けてくれ！ 全滅だ、俺達、全滅しちまう！……》



(The image is quoted from "Politics and Power", *Eclipse Phase Rulebook* 3rd Edition (Posthuman Studios LLC., 2011), p.30)

<http://eclipsephase.com/releases>

(艦橋の面々、落ち着かず。イム、手を軽く振る。音声止む)

アルアミラル こちらアルアミラル。戦況はだいぶ悪そうだな。どうする、イム副長。

イム 待て、もう少し状況を見たい。センサー班。どうであるか。

センサー班 ティターンズの主力ユニットは集結して単体化しています。形状は球形。



(Quoted from *Eclipse Phase: Rimward*, Posthuman Studios LLC., 2012, p.52.)

イム ^{えいぞう かくだい} 映像を拡大しろ。

(巨大な球形の物体が映し出される)

イム あれは何というか……。

アルアミラル ……ありや「デス・スター」だな、おい。

センサー班 ティターンズの大型艦、直径一二、八キロ。レールガンらしき大口徑兵器一基。^{だいこうけいへい き いち き}

イム みんな、どう思う。あの大きさにあの黒さは何であるか。

戦術班 おそらく表面は再生式アブラクティブ・アーマーかと。こちらのレーザーは
至近距離^{しきんきょり}でなければ有効打^{ゆうこうだ}になりません。

イム 至近距離^{しきんきょり}というのはどの程度であるか？

戦術班 推定ですが……スキャンデータから考えて、一五〇キロ以内に近づかなければ。

同一ポイントへの集中砲火^{しゅうちゅうほうか}でない限り、アーマーの表面が蒸散^{じょうさん}するだけです。

アルアミラル おいおい、まるでボクシングだな。

センサー班 副長。いま計算したのですが、あのバケモノ、集結する前の連中の排水トン
推定値^{すいていち}と現状のそれとにかなり差異^{さがい}があります。

イム どういうことであるか？

センサー班 中身は空っぽじゃないでしょうか？ 外面^{そとずら}だけ頑丈^{がんじょう}な。

イム つまり餡^{あん}のない安物の饅頭^{まんじゅう}であるか。どう思う、エンジニア。



エンジニア たしか……化石燃料時代の水上軍艦が似たシステムだったんじゃないじゃあ……船体の軽量化をはかるため、表面は硬くして、内部の防御をケチったはずですよ。

イム 軽量化？ するとあいつは見た目より機動性が高いのであるか？

パイロット でも副長。逆にあれだけデカいと、ちょっと回っただけで、遠心力のせいで姿勢が不安定になるんじゃないでしょうか。オレならあんまり動かないっすね。

イム そうか。機動性に乏しいとなると、良い標的であるな。

通信班 じゃ、なんであんなデカくなるんでしょう？ そこが不愉快ですね。

エンジニア もしかしたら船体丸ごと、大型レールガンを受納する殻なんじゃねえか？ ちょうどこのサンダーボルトみてえな。レールガンの磁気システムにはバッテリーと冷却装置が要るしな。

戦術班 にしてもヤツの砲身、よく融けないなあ。一五〇秒に一回は撃ってる。ドライアイスでも詰めてるのか？

エンジニア そうだな……こいつは仮定だが、レールガンの電磁コイルから発生した余熱を効率的に排出するなら……放射熱に変換して逃がすのに球形は有効だな。とすると……表面のアーマーをデコボコにして表面積を増しているんじゃないじゃあねえか？

センサー班 確かに敵艦の表面は相当凹凸してるよ。ステルス性はゼロだ。

AGI アルサン 《ねえねえ、みんな。気になったんだけど、だったら燃料タンクとかメインエンジン、どこにあるの(・・?)》(と無音メッセージ)

パイロット そりゃあ……あ？ もしかしたら、無い？ 回転する据付けの大砲みたいに？

戦術班 うん。大量の戦闘機隊は固定砲台のカバーだとすると筋は通るね。

イム そうか。それなら当艦のレールガンで撃てばどうであるか？

戦術班 いけるでしょう。標的の球形は命中公算を大とします。

イム では希望はあるな。センサー班、国連軍はどうだ。まだ持ち堪えているか。

センサー班 一部艦艇が戦列を離脱。現在の残存戦力、戦闘開始時の六八、二%。

アルアミラル まるで雪ダルマみたいに溶けてるな。おい、俺達も加わろう。見るにたえん。

イム ああ、そうであるな。通信班。国連軍につなげ。当艦、参戦の用意あり……。

センサー班 副長。こちらを監視するエクストロピア艦に動きがあります。エンジン噴射。

イム さすがに彼等も見るとたえないか。通信班、どうだ、回線をつないだ……。

パイロット 待ってください、副長。変です。連中のコース、ラグランジュ点と交差しません。

イム 何？ どういうことであるか。

センサー班 副長。交戦中の小惑星連合軍が戦列より急速離脱中。

イム 何だと？ パイロット、計算しろ、連中はどこに向かうつもりなんだ。

パイロット 了解。計算中……分かりました、なんて奴らだ。

イム どうした。行き先はどこであるか？

パイロット はい。連中、地球＝月の重力圏より急速離脱中。

イム 何？ 何だと？

センサー班 確認しました。小惑星連合軍の全部隊、緊急噴射で全力退避中。

イム あいつら……ティターンズの追尾は受けんか。速すぎる。

通信班 国連軍総司令部より緊急通信。地球軌道上の全部隊、戦闘態勢に移行せよ、と。



イム 当艦への指示はあるか。

通信班 ありません。受領確認の返信なし。あ、待って下さい。メッシュの天体観測ブログに書き込みあり。L3のティターンズが地上砲台へ降下中と。

センサー班 確認しました。ティターンズ、ミサイル爆撃開始。地上の戦闘機隊が迎撃中。

イム 飽和攻撃か。いよいよ窮地であるな。地球の国連軍部隊に至急メール送れ。当艦いつなりと援護の用意あり。以上である。

通信班 国連軍の連中、受信拒否しています。

イム ナニい!? なんというバカ共であるか! チョッパリめ!!

アルアミラル またまた魔女のバーさんの呪いか、チョールト!

戦術班 これはアレだな、「状況はいつものとおり……。(Situation is Normal, …)

一同 ……見るも無残な大失敗」(... All Fucked Up)。(と合唱)

アルアミラル やれやれだ。

(場面は医療室に戻る。艦内放送の流れる中、アリスターは簡易ベッドから起き上がろうとし、医師らが押さえる)

艦内放送 《こちら副長である。全部署、戦闘態勢に移行せよ。繰り返す。全部署、戦闘態勢に移行せよ……》

アリスター お、起きる。起こしてくれたまえ。

カウンセラー 駄目です。まだ安静にしていなければ。

アリスター いいから放せ! 艦橋に戻る。

医師X いけません。医療命令です。しばらくお休みください。トランクライザー用意。

アリスター 指揮権を停止するつもりかい?

医師X あなたはまだ万全ではないのです。仕事ができるお体ではありませんよ。

カウンセラー その通り。職務にはいつでも戻れますとも。いまはまずご自身の面倒を……。

アリスター その前にサンダーボルトの面倒を見なければ。(と半身を起こし)

医師X 艦長。あくまでご無理をされるなら艦隊規則第三十六条……。

アリスター それは本官が発狂したらの場合のдар? 大丈夫、目まいは治まったよ。ああ、ピワ、孫君、入ってくれ。(と手招き)

(カレンと孫、手招きに応じてアリスターのベッドに近寄る)

医師X 艦長。この部屋から半病人を出すわけにはいきません。

カウンセラー そうですよ。副長とみんなは艦長がお元気になれるのを待っているんです。あと少しだけのご辛抱です。

カレン ねえ、ダン。みんなの言う通りよ……。

アリスター なあ諸君、頼むよ。ちょっとだけさ。艦橋の野郎共に挨拶したらすぐ戻る、な?

カウンセラー まったく、アイアン・ダンときたら……。

医師X 一五分、一五分だけです。必ず戻ってきてください。いいですね、それを越えたら……。

アリスター 我が親愛なる医師団は首狩り族に変貌するのだろうか? 了解さ。

医師X あなたとあなた、艦長に付き添って……。 (と助手に命じる)



アリスター いやいや、付き添いなら女神カレンがいる。彼女は救急医師免許を持っている、
だろ？

カレン えっ？ なんでそれ知ってるの？ 免許取ったの、大学卒業してからだし……。

アリスター ビワ、お願いだよ。

カレン (アリスターの真剣な顔つきを見て) ……わかったわ。じゃあ、引き受けます。

医師X 本当に免許をお持ち？

カレン ええ。

医師X 了解です。では一五分たったら必ず……。

カレン ……首根っこを捕まえてここに引きずってきますよ。

医師X 結構です。ではこの頑固者をお引渡しします。

(アリスター、ベッドから起き上がって深呼吸)

アリスター やあ孫君。うちの艦を十分堪能してくれたかな。ビワのご子息と勘違いしていて
申し訳ない。

孫 いいってことよ！ この艦スゲえよなあ、バッチリだぜ！ エンジン。あんなピカ
ピカのマシーン、はじめて見たぜ！

アリスター そうか。では艦橋も気に入るだろう。見に行くかい？

孫 マジかよ！ 行く行く！

カレン もう、ダン。あんまり彼を甘やかさないで！

孫 なんだよ。カレン老師はうるさいな。

カレン どっちが！

アリスター まあまあ、二人まとめてご招待といこう。わたしの顔を立ててくれよ。

(アリスター、医療室を出る。カレンと孫、後に続く。アリスター、しばらく廊下を歩くと首を振り、壁にもたれる)

アリスター すまない。二人とも、ターボリフトのところまで肩を支えてくれ。

カレン ちょっとダン、どうしたの？ 大丈夫だって自分で……。

アリスター 頭がクラクラするんだ。長い距離歩けそうにない。

孫 おいマジかよ……熱あるぜ。(とアリスターの額をおさえて)

カレン ダン。やっぱり戻りましょう。とてもこんな状態じゃ……。

アリスター 駄目だ。今すぐ艦橋に行かなくては。

カレン ダン！ 無理よ！ みんなその姿を見たらかえって心配するわよ！ あなたは責任
ある役目に……。

アリスター 聞いてくれ。時間がない。今すぐ手を打たないと大変な事態になる。早く艦橋に
連れて行ってくれ。大丈夫、艦橋に着いたらシャンとするから。

カレン どういうこと？

アリスター 直感が告げている。いまこそ決戦の時が来た。わずかなミスが命取りになる。

カレン じゃあ、さっきそう言えばよかったじゃない。

アリスター 直感のことをかい？ 狂人扱いされて麻酔打たれるのがオチさ。

カレン うわ、ひどい汗……駄目よ、やっぱり戻りましょう。孫君、肩もって。



孫 お、おう。

アリスター 頼む、二人とも聞いてくれ。当艦は、地球は絶体絶命の窮地にある。間違いない。わかるんだ。

カレン そんなこと言って、いい加減にして……。

アリスター (カレンの話をさえぎり) わたしにはわかる！ 感じるんだ。戦機、死神の気配……わかるんだ。今こそ生死の境目だ。このままだとサンダーボルトは沈む。

カレン どういうこと？

アリスター ケントの作戦は穴だらけだ。ティターンズに散々に叩かれる。地球は軌道上からメッタ撃ちにされる。氷河期になるぞ……。

孫 でもさ、地球にはまだ防衛衛星とかあるだろ。あれで……。

アリスター あれはただの浮遊砲台だ。備え付けのレーザーとミサイルだけでは、遠軌道からの実体弾投射攻撃を阻止できない。今までは人類の側に艦隊の傘があったから、ティターンズは戦略爆撃を強行しなかった。だが地球に機動兵力が無くなったら……。

(アリスター、頭をふる)

アリスター だいたい、いくらアメリカのAIがお粗末だからといって、実戦力不詳の相手に正面攻撃をしかけるプランがいきなり浮上するところからして、おかしい。地球の官僚や政治家だってアホばかりじゃないだろう。なのに地球軍は連戦連敗？ 労働者とかAIの反乱なんかじゃなくて構造全体のサボタージュなんじゃないのか？ この平和と戦争の受益者は誰だ？ 地球が暴落して得をするのは誰だ？ この戦争のカラクリが、あと一步で、もうちょっとで見えてくる……。

(アリスター、二人に手をさし出す)

アリスター 支えてくれ。早く行かなければ……。

孫 わ、わかったよ。俺こっちの肩持つからさ、カレン、そっちの……。

カレン 待って、孫君。話があるの、ダン。

アリスター 何だ、手短かにしてくれ。

カレン わたし、全部聞いたの、イムさんから。

アリスター 何を。

カレン あなた、地球の人、みんな見捨てようとしてるんでしょ。

孫 なあ、どうしたんだよ、カレン。いきなりさ……。

カレン ちょっと黙ってて、孫君。答えなさいよ、ダン。そうなんでしょ！

(アリスター、しばらく沈黙。カレン、アリスターをにらみつける)

アリスター で、そうだとしたら、どうする？ (と軽く笑い)

カレン そんなメチャクチャなこと、よく考えつくわね。それで今度は地球を救うってわけ？ へえ、大した軍人さん。何が法律よ、何が公共よ。全部その場しのぎじゃない！ わたしのこと女神とかいってさ、みんなを救うとかいってさ、ダン、酷い



よ。全部ウソだったなんて……。

アリストター ビワ、わたしは……。 (とカレンの腕に触れようと)

カレン 触らないで。 (と身をひるがえす)

(カレン、その場を去ろうとする)

アリストター 待って！……イムがもう話したなら、わたしが首相に何を進言したのか、それも知っているのね。タイタン生き残りのための大戦略 (Grand Strategy) も。

カレン な、何のことよ……。 (と涙目で振り向く)

アリストター ヒューマンスクープ計画。そして「吸血ポンプ」作戦。

カレン ヒューマン……なに、それ？

(アリストター、首を振り、穏やかに語りかける)

アリストター ビワ、どうしてわたしが地球を離れたか、知ってる？

カレン お、お父さんの、し、仕事の都合だって……あなたがメールにそう書いてたくせに！ お別れの挨拶一つなしに！ わたしの気持ち、全然どうでもよかったんでしょ、そうなんでしょ……。 (と大声で涙をこぼしながら)

アリストター 孫君、悪いが二人きりにしてくれないか。

孫 お、おう……。

(孫、最初はゆっくり歩き出す。一定以上の距離になると急に駆け出す)

アリストター (孫が見えなくなってから) ……あのね、カレン。ほんとはね、わたしの父、犯罪者だったんだ。

カレン えっ？

アリストター 父は詐欺師。金融詐欺師。

(アリストター、耐えきれず崩れ落ちる。カレン、膝をついてから、崩れ落ちたアリストターの頭を持ち上げ、自分の膝の上に乗せる。)

アリストター ありがとう……。ホントはね、本当のわたしは、父が娼婦に生ませたこどもなんだ。母のことは何もわからないし、故郷なんてどこにもない。父とわたしはね、ずっと地球各地を転々としてきた。ヨーロッパ、カリブ海、ロシア、中国……父はガッポリ儲けて遊びまわったけど、わたしはずっと一人ぼっち。友達をつくらうにも、地元の言葉を話せる頃にはもう別の土地に高飛び……それでね、最後に行き着いたのが、メッシュ・セキュリティの甘かったジャパン……ビワ、あなたは最初の友達だったんだ。最初の、本当の親友なんだよ。

カレン じゃあ、地球を離れたのは……。

アリストター ……うん、さすがにジャパン警察に気づかれたらしくて。もう地球にいられない、お次は新天地の宇宙というわけ。移民船にうまく紛れ込んだんだ。それで火星、小惑星帯、最後にタイタン……ううん、違う。もうわたしたちを受け入れてくれるコロニー、そこしかなかった。人様のお金を使い込んだ犯罪者の親子をね。 (と自嘲す)



カレン でも……でも今はそんなこと、していないんでしょ？

アリスター うん……もうそんな生活、いやになったんだ。だからタイタン警察に自首した。父も逮捕されてね。心底ほっとした。もう逃げ回らなくていいんだ、って。

カレン じゃあ、刑務所に入ったの？

アリスター ううん、そこからまた話がややこしくなって……当時の、まあ今もそうだけど、タイタン政府は優秀な人材、それも情報セキュリティの実務家を切望していたんだ。でそれで、父とわたし、政府に協力するって条件で免罪になったわけ。といっても条件に応じたのは父。オマケ商品だったの、わたし。

カレン オマケなんて、そんな……じゃあ、地球にも、その、何か盗みに来たの？

アリスター 違う、違うよ。今はもう泥棒なんかしてないんだよ。父だって、今じゃタイタン政府のスパイ部門を任されてね。あの人ったら、身元偽装のために乗り換えたオランウータンの身体、変に気に入ってて。ボス猿みたいに威張って働いてるの。ホント、嘘みたいでしょ、詐欺師が国のスパイの元締め、だなんてね。(と嘲る)

(カレンは黙っている。アリスター、さらに語りかける)

アリスター わたしね、海軍に入って、ホントに良かった。教練なんて、こどもの頃に比べたらずっとまし。警察やギャングに襲われたらってビクビクしてピストル抱えてた、あの頃……今なら、仕事をこなせば褒めてもらえて、成果をだせば認めてもらえる。何かして人に喜んでもらったこと、ビワ、あなたと別れてずっとなかったから。

(アリスターとカレン、見つめあう)

アリスター わたしね、ビワが、うらやましかった。わたしみたいな偽物じゃなくて、本当のお嬢さんって感じがした。わたしがどんなに頑張っても手に入らない家とか故郷とか持ってるって……。わたしの手に入るのは、努力でなんとかなるような、その程度の紛い物だって……ごめんね……。でもね、わたしね、ビワ、ううん、カレン、わたし海軍が好き。タイタンが好き。このサンダーボルトはね、ね、知ってる？ 自分で設計して、自分でドライヤードにキールを置いて、わたしが初めての艦長なんだ。乗員も、装備も、自分で一人一人、一つ一つ選んだんだ。この艦のA I ね、パーティション切って、OS からアプリまでインストールしたの、わたしなんだ。ここが我が家なの。人間のクズの詐欺師、そいつの娘が手に入れた、たった一つの家。この床も、この壁も、電脳も、配線も、砲塔も、装甲も、エンジンも、燃料タンクも、みんなみんなわたしのもの。どこの国の、どんな戦艦にも負けない、最新鋭の戦闘航空母艦サンダーボルトはね、わたしが、わたしの手をつくったんだよ。わたしの戦友のために、わたしの星のために。

(アリスターの瞳に涙)

アリスター 地球のこと、どうでもいい、か。そうかもね。わたし、心のどこかであなたの星のこと、嫌ってた。あなたのことも好きだったのに嫌ってた。もう地球はわたしの星じゃない。振り捨てたい過去、しがらみ、いいえ、諸悪の根源、倒すべき敵、



そんな風に思ってた。でもね、今は違う。

カレン どうして？

アリスター あなたがいるから。

カレン わたし？ わたしのために地球を助けてあげるってわけ？

アリスター 違うよ。助けるんじゃない。手をさし出したいの。

カレン どう違うの？ どっちもあなたの勝手な言い分でしょ？

アリスター あのね、「**助けてあげる**」っていうのは、それは助けられる相手の都合、本当はろくに考えてない人がよく使う言葉だと思う*2。でもね、「**手をさし出す**」っていう時、手を取るかどうか、それは相手に選択を委ねるってこと。助けるんじゃないで、助け合う。この艦は誰でも助けるんじゃないで、わたしのタイタンの人々が生き残るチャンスをつくるためにつくられた。でもね、カレン、あなたに聞きたいけど、地球の人はわたしたちタイタンが、この艦が手をさし出したら、どうする？ 国連はその手を振り払ってしまった。あなたは どうしたい？ どうして欲しい？

カレン なんて、なんでわたしに聞くのよ、そんなこと？

アリスター それはね、カレン、最初に手をさし出してくれたの、あなただから。

カレン わたし？ 何の話？

アリスター 憶えてないの？

カレン えっ、いったい？

アリスター ジャパンに来て、言葉も習慣もよくわからないわたしに、クラスの誰とも打ち解けられなかったわたしに、初めて手をさし出してくれたのは、ピワだった。ピワだったよ。はっきり覚えてる……。ねえ、わたしに言ってくれた最初の言葉、忘れちゃった？

カレン ……なんとなくは憶えてるよ……たしか「こんにちは。わたしの名前、カレンっていいです。あなたとわたし……」。

アリスター そう、「あなたとわたし、クラスメートなんだから、お友達になりましょ。よろしくね」だった……。

カレン ……二〇年も昔のことだよ……だから来てくれたの、地球に？

アリスター あのね、カレン。やっぱり地球は好きになれない。

カレン ……。(困惑した顔つき)

アリスター 大丈夫だよ！ あのさ、地球もタイタンも、同じ銀河の同じ太陽系の中にあるクラスメート、でしょ？ だからもう一度、地球の人ともう一度だけ、友達になるチャンスを持ちたかった。でもこの艦にできることには限りがあるよ。地球のみんなに手をさし出すことはできないの。助け出せるのはごくごく少数の人だけ。他の人は見捨てるしかない。もしかしたら他の人を殺すことになるかも。だって、誰かに手をさし出すって決めることは、そうしないで死なせてしまう人を決めるってこ

*2 具体的には、アフリカに対する 20 世紀の援助のメッセージには往々にして「現地の暮らしを改善したい」という心情にあふれている点が、19 世紀以来のヨーロッパによるアフリカ蔑視観 (=遅れた現状を「変えてあげたい」 (=支配したい) という真剣さ) の延長線上にあることに共通している。この「歪められたアフリカ感」には「アフリカ社会やそこで暮らす人々が自らその状況をどう認識し、この困難に対してどのような処方箋を備えているかについて、謙虚に考慮しようという姿勢はない」。すでに本作「第二幕」脚注 No.18 で言及した福井憲彦、杉山正明、松田素二ほか『興亡の世界史 第 20 巻 人類はどこへ行くのか』(講談社、2009 年) の pp.289-291 を参照。



とだから。もし誰も殺したくないなら、みんなを見捨てるしかない。誰も助けなければ、誰にも不公平にならない。「人を出来るだけ殺さない」のであれば、そうするしかないよ。

カレン そんなの詭弁よ！手をさし出そうと努力するより、見て見ぬ振りをする
の方が正しいっていうの!?

アリスター それが正解なのよ。それが「減点主義」っていう正義。だから官僚だって政治家だって、企業だって資本家だって、弱い人に手を貸さない。貸せば責任が生じるから。損するかも、失敗するかもしれない。負けたくなくや何もしなければいいの。絶対成功する時だけ行動すればいいから。弱者をいくら踏んだって、ルールを破って八百長したって、勝ったら全部許される。それがいまの地球のルール、戦いのルール。だからみんな勝者にすり寄る。そうやって百年以上、地球という名の機関車は走り続けた。負けた人の死体を燃料にして、でしょ？

カレン ダン、それじゃ人は何のために生きているの？弱い人を見捨てて強い人が生き延びるのがわたしたちなの？それなら赤ん坊だって見捨てるの？家族や友達を棄てちゃうの？そんなのおかしい。弱いとか強いとか、そんなことで生きるか死ぬか決まってしまうなんて、それはわたしの知ってる人間じゃない！

アリスター わたしだって、そんなことはしたくないよ。でもね、カレン。この腕は二本しかないの。一方の手はタイタンの同胞と握り合ってる。強く固く。残っているのはもう一本だけ。三本目はないの。わたしの祖国は善い国だけど、無限の援助をするわけじゃない。そうよ、建国の理想を、わたしの希望を笑ってたヤツらに、なんで手をさし伸べなきゃいけないの？地球人なんて、タイタンの頑張りを笑ってた連中なんて、ティターンズに踏まれて死ねばいい！地球人が苦しんでる？ホント、すごく良い気味。(と笑う)地球人はルールが大好き。弱肉強食ってルールが、でしょ？それで地球が外世界を笑ったんだから、今度は外世界が地球を笑う番。でもね、だけどね、それで本当にいいの？わたしは、タイタン市民は、あなた達に何が出来るの？選ぶのはあなた、地球人さん。さあ、選んで。最後に一度だけ。

(間)

カレン 残った腕は一本しかないのね、ダン。

アリスター うん。

カレン でもね、それで一人はつかめるのよね。

アリスター うん、一人だけなら。

カレン でもね、その一人が別の一人をつかめばどう？それなら二人に手をさし出したことになるよ。

アリスター その人がつかめば、だけどね。

カレン ……ねえ、ダン。善意っていうのは、何か善いことをしたい、って思うことじゃないよ、多分。

アリスター じゃあ、何？

カレン 善意ってね、善いことをした時のすがすがしさ、なんじゃないかな、きっと。



アリスター それなら悪意って何？

カレン それは……やらないってことかな。善悪って、そうきっと、自己満足の有り様、なのかな。これから何をしたいか、じゃなくて、これまで何をしたのか。ただそれが、これから他の人にどう関わるのか、それだけの違いなんじゃないのかな。

アリスター 何それ？ じゃあ、善も悪も自分だけ気持ち良ければいいの？

カレン いいえ、そうじゃない。人は自分が善いと思うことをする。それは他の人にとっての善行にもなるし悪行にもなる。それは仕方がないんだと思う。だってわたしたち、なんでも知ってるわけじゃないし、なんでも出来るわけでもないから。でもね、これだけは言えると思う。

アリスター 何？

カレン それはね、人の不幸を悲しんで、人の幸せを望んで、それで実際に手をさし出す人、その人がきっと善人なんじゃないかな。人の不幸を楽しめる人、善いことをただ思ってるだけで手を惜しむ人、そういう人は悪人なのかもね。善にあって悪にないのは、きっと人を大事にするって行動で示せること、なんだと思う。

アリスター ……うん、そうかも。

カレン 今、誰かが不幸になりかけてるのよね？

アリスター うん、ものすごく。

カレン じゃあ、手をさし出しに行きましょ、一本だけ。それが次のもう一本になるって信じて。(とアリスターに額をよせる) ごめんね……。

アリスター こっちこそごめん……。

(二人はしばらくそのままにいる。アリスターが先に口火を切る)

アリスター ……もう大丈夫。医療班に怒られちゃうよ。

カレン (笑って) そうね、うん。よし、行こう。(と自分の額をアリスターに軽くぶつけてから、アリスターの頭を起こす)

(アリスター、立ち上がろうとする。カレン、アリスターを肩で支えようとするがうまく持ち上がらない。)

カレン 孫君、そんくーん！ いないかな？ すみませーん！ どなたか手伝ってくれませんかー！

(アリスター、半分崩れ落ちながら微笑んでいる。やがて廊下の角から孫が現れる。少し戸惑ったような感じでおずおずと近づき、カレンを補助してアリスターを支える。アリスター、立ち上がる。三人はゆっくり歩き出す。)

アリスター その角を曲がってくれ。予備宇宙服のブースがある。四人分あるはずだ。着方はもうわかってるよね。

カレン うん、大丈夫よ。

孫 なあ、艦長さん。

アリスター 何だい？

孫 俺、二人の話ちょっとだけ聞いちゃった。

アリスター ああ……。



孫 艦長さん、強いことって、悪いことなのか？ 他人に勝つって、悪いことなのか？

アリストター ……ああ、それって不朽^{ふきゆう}の問いだね。正解は誰一人知らない。でも……。

孫 でも何だよ？

アリストター かってね、それを使うことで意味が生じる。そして人を傷つけるより、人を癒^{いよ}すことの方が、そう、何倍も難しくて、何倍もやりがいがあるんじゃないのかな。

孫 でもよ、助けてやったそいつが俺らに歯向かったら、どうすんだよ？

アリストター そうだな、その時は……クックックッ……。 (と抑えた笑い)

カレン やだ、何それ？ 気持ち悪い笑い……。

アリストター いやなに、イムが聞いたら言うだろうな、「右の頬^{ほお}を打たれたら……。

カレン ……左の頬^{ほお}をさし出せ」ね。うん、あの人、言いそう。

(アリストターとカレン、笑い出す)

孫 何だよ、それ。意味わかんねえよ。おいカレン、何おかしいんだよ。

アリストター なんでもないさ。将来、君がガールフレンドと喧嘩したら、この格言^{かくげん}を思い出して頬^{ほお}をさし出すがいい。

カレン もう、ダンったら。まだこの子には早いって！

孫 またこども扱いかよお！ 俺、もう大人だって！

アリ&カレン はいはい。(と目配せしあって)

(少し時間経って、アリストター、カレン、孫、エレベーターで艦橋に着く。イムと乗員一同、立ち上がって敬礼)

アリストター やあ、待たせたな、諸君。パーティを楽しんでいるかい？

イム はい、艦長！ お待ちしておりました。当艦の全部署は、艦長の御命令^{ごめいれい}を待つばかりであります！

アリストター 留守^{ろうす}にしている悪かった。これより本官が指揮を引き継ぐ。

イム 了解。これより艦長が指揮を執ります。

AGI アルサン 《全部署に通達。アリストター艦長が復帰^{ふっき}されました d(∩o∩)b》(と無音メッセージ)

(アリストター、きびきびと歩いて艦長席に座る。カレン、孫、エレベーターに留まる)

(舞台袖にカウンセラーと医師 X が登場。)

カウンセラー 結局こうなるんですね……。

医師 X 出すべきじゃなかったな……。

(二人すぐに退場。)

イム 失礼ながらうかがいますが、御容態^{ごようたい}はよろしいのでありますか？ (と小声で)

アリストター 歴史的な大イベントが始まりそうっていうのに、見守るだけなんて興^{きよう}ざめだろ。(とイムに) ありがとう、二人とも。もう大丈夫。医療室に戻りたまえ。(とカレンと孫に) まずは状況知らせ。経過は？ (と改めてイムに)

イム はっ、このディレクトリに圧縮ファイルでまとめております。脳内にダウンロードください。(とパッドを差し出す)



アリスター (パッドを受け取り) 了解。ダウンロード中……。

(カレン、エレベーターから艦橋に足を踏み出す)

カレン あの、ねえ、待って！ 迷惑はかけないから、艦橋にいていい？ 端っこでいいから。

アリスター うん？ 君はいったい……。

イム 艦長。意見具申いたします。

アリスター よし、どうした。

イム はっ、ミズ枇杷坂は地球の事情に通じております。彼女の助言はこれからの戦闘において有用かと。

アリスター そうかあ？……うーん、かもしれないな。よし、提督座乗用の席を出せ。

イム 了解。(艦長、副長の席の傍らの床がせり上がり、椅子が登場する)

アリスター そういうわけだ。孫君、悪いけど一人で医療室まで……。

孫 俺だけノケ者!? そんなあ、カレン。俺も艦橋にいたいよウ。

カレン 大人の邪魔はしないの！

孫 (半泣きで) なんだよ！ 俺だってもう大人だよ！

アリスター (笑って) そうだな。地球事情に通じた人物は多いほうがいいな。孫殿、お行儀良くお願いできますか？

孫 お、おう？ 行儀良くする。いや、しますであります！ 艦長様！

アリスター (笑いをこらえて) さすが、大人だな。

孫 お、おう！……行儀良い大人であります！ こどもとは違うのであります。

(乗員一同、笑いをこらえるのに苦労)

イム まあまあ、席は参謀用が残っておりますから。

カレン そうよ。この子、いえ孫君、わたしの副長さんなの。きっと役に立つわ。

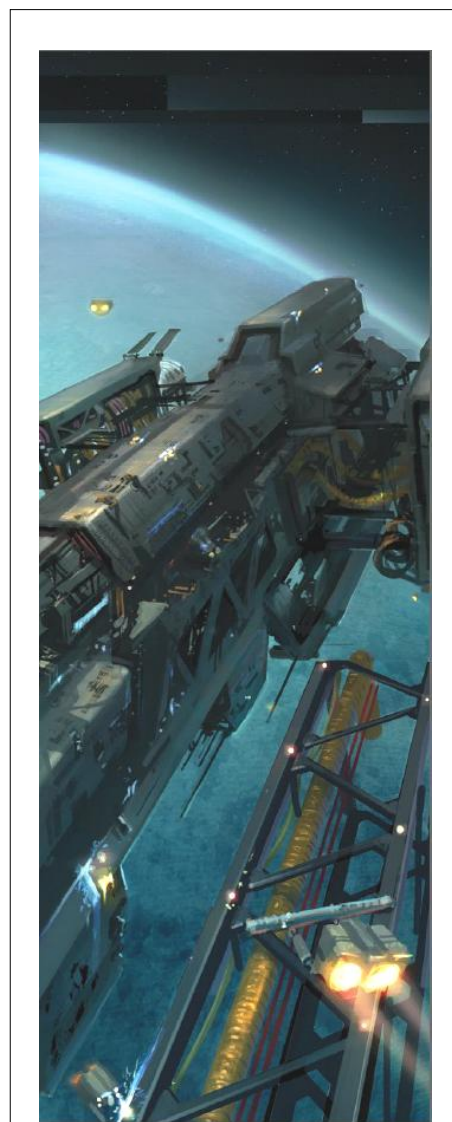
孫 おうよ……いえ、そうであります、役に立ちます、艦長様！

アリスター 二人とも早く座れ！ 着席後はシートベルト。いいな。(また床がせり上がり、もう一脚の椅子が登場)

カレン&孫 はい！ (と着席)

アリスター やれやれ。いよいよこども艦長か……まあいい。ところで状況は把握した。まずは落ち着いて考えよう、副長。戦況分析を聞きたい。

イム はあ、L1を攻めていたはずの国連軍は総崩れのようにありますな。まだ持ち堪えております



(The image is quoted from "Eclipse Phase Rulebook 3rd Edition (Posthuman Studios LLC., 2011), p.281)

<http://eclipsephase.com/releases>



が、時間の問題でありましょう。

アリスター しかも敵の戦闘機隊は追撃モードに入っている。押せ押せムードだな。
イム 当然でありましょうな。ところでティターンズが一部隊として当艦への迎撃コースを取っていないのは、あるいは異なるのでは？

アリスター かもしれん。センサー班。ティターンズの動きはどうだ。L3のは動いたか。

センサー班 当艦への追尾なし。もっぱら地表を攻撃目標にしている模様です。
イム 妙でありますな。国連軍が弱まった今、彼等にとって最大の脅威は我らのはず。やはり計略なのでは？

アリスター かもしれん……が、いや違うか。あるいは……そうか、なるほど。(とニヤリ)
イム 何かお考えが？

アリスター ああ、副長。確認するが、国連軍は当艦を友軍だと認めていないのだな。
イム はあ、メッシュ通信のCC(カーボンコピー)リストからも外されているようであり
ます。そうであるな、通信班。

通信班 そうです。

アリスター そしてまだ当艦はステルスモードに移行していない。そうだな？

イム はあ、そうであります。

アリスター わからんか、副長。落ち着いてゆっくり考えてみる。これは単なるクロスワードパズルだ。(とクスクス笑う)

イム はあ？ でありますか？

アリスター わからんかね？ みんなはどうだ。(と呼びかけ)

一同 ???

アリスター よろしい。見たまえ、そして学ぼうじゃないか。優れた戦士とは賢者であって、馬鹿になる必要は全然ない。戦術班。ステルスモードに移行。パイロット。最大加速用意。コースは地球周回。ただしL1より出撃したティターンズ戦闘機群の後背ストレスレに設定だ。通信班。回線は別命あるまで無電封鎖。それから最大出力ジャミングのヨーイ。センサー班。L3は放っておけ。L1のティターンズとくに敵戦闘機群の動向をパッシブで追跡。それから戦闘機隊。おい起きろ、戦闘機隊！

アルアミラル こちら戦闘機隊……って、アリスターか！ 身体は大丈夫か？

アリスター みんな、二言目にはそれだな。おかげさまでね。いよいよだ。全力出撃を準備。

アルアミラル 了解だ。こっちはいつでも行ける。デカイのをしとめるか？

アリスター いや。まずは敵戦闘機を叩こう。だがまだだ。出番を寝て待て。

アルアミラル 了解だ。

アリスター よし。次はエンジニア。応答せよ、エンジニア！

エンジニア よーく聞こえております、艦長！ ご命令は？

アリスター そろそろエンジンを酷使するぞ。覚悟しろ。それと反物質の残量だが……。

エンジニア まだ四四%あり。いけます。

アリスター よし。では反物質タンクの緊急射出システムを起動せよ。射出モードは拡散、三〇秒間だ。

エンジニア はあ？ はあ、了解。しかし反物質は安定してますが？



アリスター わかってるって。別命あるまで射出するなよ。アリスター終了。
では諸君、いよいよだ。準備はいいか？ (と一同に)
一同 はい、艦長！
アリスター よし。パイロット。行け！
パイロット 発進します。

(艦橋、ガタガタと揺れ出す)

イム 我らの敵はティターズなのでありますな？
アリスター うん、そう決めたよ、副長。それで謎解きの答えは出たかい？
イム はあ……どうも判然としかねます。艦長が企図されておいでなのは、ティターズ戦闘機群に近接した上で、当方戦闘機の全力出撃と至近距離からの砲撃による撃破だというのは分かったのでありますが……。
アリスター そうだよ。そこがわかるなら正解まであと一歩じゃないか。
イム しかし敵の大型艦からのレールガン攻撃はどう避けます？ いかにもステルスとはいえ、近づいて戦闘機を出せば、いいえ、その前にティターズも熱源探知でさすがに気づくであります。敵の艦と戦闘機群の間に入ってわざわざ挟撃を被るのは、戦術的に見て得策ではありませんまいに……。
アリスター そうそう、いよいよ正解に近づいたねえ。そうだよ。(と嬉しそうに)
イム 艦長、お手上げであります。教えてください。(とうんざりして)

(艦橋、さらに揺れる)

アリスター これは戦術というより政治の観点なんだが。なあ、副長。現在の戦場におけるプレイヤー全員にとって、本官たちはいったい何者なんだい？
イム はあ？ タイタン海軍所属の戦闘空母サンダーボルト、でありますか？
アリスター ああ、それは当艦から見た当艦だね。そうじゃない。国連軍にとって本官たちは敵かな、味方かな？
イム はあ。敵、でありますか。あえて分類すれば。
アリスター そう。ではティターズにとっての本官たち、はどうだろうか？
イム はあ？ 敵……ではないのでありますか？
アリスター (クスクス笑いながら) なあ、こうだよ。ティターズは国連軍の艦艇のコンピュータをハックした。そのデータベースも閲覧したはずだ、当艦に関する情報が含まれている、ね。そうだな？
イム はあ、おそらくは。
アリスター 絶対そうさ。戦術A Iは戦術的情報の収集に貪欲だ。そして彼らはそれを通じて本官たちが国連軍の「敵」であることを知った。
イム はあ、それで？
アリスター いいかい。ここからが肝心な点だ。政治的には、ティターズは国連軍の敵だ。では国連軍の敵はティターズの何だろうか？ 政治でなく戦術的に考えると？
イム はあ？ 戦術的、でありますか？



アリスター　　なあ副長。海軍大学で習^{なら}ったろ。ウォーゲーミングにおいて、プレイヤーの立場は原則三つしかない。敵、味方、中立。それが戦術的思考のパターンだ。彼^{ちゆうりつ}我^{ひが}の状況を類型化して単純なモデルへと置き換える。俗に言う「敵の敵は味方」だよね。これこそ戦術AIの典型的思考、いや限界だ。さあ、これでどうかな？

孫　　わかったぜ！ 俺、わかった！

カレン　　孫君っ！ 行儀良くするって約束したでしょ！

孫　　え!? ああ、はい、わかりましたであります、です……。

アリスター　　どうだい、副長。最新のAIはまだまだヒトのこどもの知性にさえ追いついていない。これは将来の課題であり希望でもあるね、人類にとって。

イム　　はあ、確かに。かつ艦長の仰^{おっしゃ}ることは理解できたように思えます、ただ……。

アリスター　　ただ？

イム　　それは一つの憶測^{おくそく}を大前提とし、一つの大きな賭け^{ともな}を伴いますな。

アリスター　　うん、確かに。(と厳しい顔)

イム　　御承知でありましょうが、外^{はず}れた時は……。

アリスター　　……その時はわたしたち、地球社会、そしてたぶん人類は亡びる。

イム　　了解しました。その賭けに乗りましょう。レイズであります。

アリスター　　そしてショーダウンだ。

(カレン、当惑ぎみにアリスター、イム、孫を見回す)

カレン　　(小声でイムに向かって) ごめんなさい、何もわかっていないの、もしかしてわたしだけ？

アリスター　　いやはや、聡明^{そうめい}なるカレン殿ならとうの昔にお察^{きつ}し下さったと……。 (とニヤリ)

カレン　　ねえ、ダン！ あなたのそういう厭味^{いやみ}、昔っから嫌いだった。これ、はっきり言っとくね。ついでに言うと、とっても善^よくないよ、その言い方。今後改めて。

アリスター　　はいはい、了解です、ビワ。

カレン　　はい、は一度でいいの！

アリスター　　はい、了解であります！ 枇杷坂^{びわさかの}殿！

孫　　あれ一つ、艦長さん、怒られてやんの！ おっかねえなあ、カレン。

(乗員一同、笑いを隠さず)

アリスター　　というわけだ。解説してさし上げろ、副長。

イム　　はあ、了解。(とカレンに向き直り) それはこういうことであります、ミズ枇杷坂。総合すると、ティターンズは現時点に限って、我らを中立ないし味方だと誤解している、なぜならティターンズの敵は国連軍であって国連軍の敵はティターンズおよび我らサンダーボルトだから、というわけであります。敵の敵は味方という理屈が成立すれば、であります。

カレン　　えっと、なんだかこどもの理屈ですね。そんなに単純なんですか、この話？

イム　　そこです。状況証拠^{じようきようしやうこ}はティターンズが我らを敵視^{てきし}していないことを示唆^{しき}しております。しかしこれはあくまで状況証拠^{じようきようしやうこ}でして、確証^{かくしやう}ではありません。



カレン ええ、それで？

イム 彼等が状況をあくまで戦術的に解釈しているならば、艦長の作戦は成立します。つまりティターンズが当艦を射撃しないであろうことに賭け、ギリギリまで近づいた後、ジャミングで敵の連絡網を遮断し……。

アリストアー 最大火力を発揚して瞬殺する、特攻も辞さず。でなければ国連軍は壊滅だ。

(艦橋、静まり返る)

戦術班 艦長。いっそのこと、敵の超大型艦に向かった方がよろしいのでは？ こっちには奥の手の反物質砲弾、それにタンクの分があります。一〇グラムでも当てれば確実に爆散ですよ。

アリストアー それは考えた。が、そのためには相手への迎撃コースを取らねばな。戦術AIはそういうところに敏感だ。接近する対象が彼我不明瞭な時には、敵と見なしで攻撃または回避せよ。さすがにその程度の思考ルーチンは組み込まれているだろう。従って明確な戦術機動をしないことが接近の必要条件となってくる、おそらくな。

イム かつ、いよいよの間際まで戦闘機隊を出さないのが賢明でありましょな。

アリストアー となると、撃破しやすいのは大型艦でなく小物だ。戦闘機隊の緊急発進と反航戦で片舷斉発、それが限度かな。まさかスーパーAI相手にクラッキングは仕掛けられまい。まあ回線を閉じている限り、こちらは安全だ。

イム それでも敵戦闘機の相当数は叩けるかと。反物質をバラまかれるのでしょうか？

カレン ええと、またゴメン。たしか反物質って、すごく危険で、地球のそばでの利用って禁止されているはずじゃあ？

アリストアー そう、国際法でね*3。なにしろ当たれば彼我もろとも大爆発して対消滅だ。

カレン じゃあ、そんなの撒いたら……！

アリストアー 国連軍も地球も被害甚大かもしれない。でもやるしかない。それがわたしたちに残された最後のカードなんだ。

イム 艦長、お訊ねしても？

アリストアー 何だい？

イム 一撃離脱のあとはどうされます？ 地球周回コースということはL3を？

アリストアー 実は決めていない。

イム 艦長……。

アリストアー いいかげんですまん。しかし正直、これほどの敵相手に我一艦で向かうとは想定してなかった。(とため息) まずは最善を尽くそう。悲運の戦局を挽回し、混沌の種を撒き散らすんだ。そこに一瞬の勝機がかならず芽生える。そこで決戦しようじゃないか。孫子曰く、「**困地には謀り、死地には戦え**」さ……すまん、みんな。こんな低脳指揮官で。(と小声)

イム 艦長。貴方の部下は、誰一人として貴方を低脳などと思っはおりません。た

*3 EP 公式設定によると、反物質エンジンを積んだ宇宙船(軍艦や高速輸送船)は、通常は人類が居住する星に接近することを禁じられている。Eclipse Phase Rulebook 3rd Edition, p.347.



とえ死すとも、アイアン・ダンと共にこの場で戦うことを悔やむ者なぞおりませんとも。決して、決して。

(艦橋の乗員、艦長と副長の方に振返ってうなづく)

アリスター ありがとう……ありがとう、みんな。副長。艦内放送の用意だ。

イム 了解、いつでもどうぞ。

アリスター よし。全部署に告ぐ。こちら艦長だ。聞いてくれ、みんな。

当艦は、事態の急変に応じてただちに出動、ティターンズを撃滅せんとする。敵は手ごわい。おそらくこの戦いで、わたしたちの誰かが死ぬ。祖国を発つてすでに半年、わたしたちは大勢の戦友を失った。仲間がこれ以上死ぬのは辛い。みんなだつて死にたくないだろう。でもな、みんな、いま待機中の船団には、無残に殺されるに値することを何らしていない幾百万のヒトがいる。貧しさに疲れきった人が、次の世代を身ごもった妊婦が、生まれて間もない赤ん坊がいる。そのヒトたちの苦しみを見るに見かねて、わたしたちは遠い地球にやって来た。彼らを見捨てるためじゃなく。断じて、断じてそうじゃない！

知ってるか、古代中国の格言に「愚公、山を動かす」とある。たとえ愚かであっても、全力で事業にとりくめば、山をも動かし海をも埋める。それがタイタン魂、タイタン建国の精神だ。わずか一〇〇年前、タイタンは凍てつく無人の星だった。そこへ建国の父母がたどり着き*4、古えの信義と博愛に、ヒトとヒトとの思いやりに満ちあふれた技術立国を築こうと、高い理想を抱いて降り立った*5。一人一人は弱いけど、気概を持って合わされば、巨大な偉業を成し遂げる。疑う奴は疑え。笑う奴は笑え。だがどうだ、建国の父母の精神は、ヒトとAI、そう、このわたしたちを結びつけ、戦闘空母サンダーボルトをつくりあげた。でもな、みんな、もし今ここで逃げ出したら、太陽系の誰もが、タイタン魂なんてウソだったと、建国の理想なんてデマカセだったと、心底ガッカリするだろう。軍艦の建造には三年かかる。だが理想の再建には一〇〇年かかるだろう。今この戦いで試されてるのは他でもない、この艦にいる一人一人のガッツだ！ ここまで来たのにゼロからやりなおすのか？ いいや、断じて、断じてそうじゃない！

なあ、わたしたちの祖国は一四億キロの彼方にある。遠いな、はるかに遠いな。だが力を尽くして努めれば、どんなに遠くとも、道は必ず開ける。そして道の途中に立ちほだかるのが、そう、倒すべき敵だ。さあ、みんな、これからの戦いは一分一秒、全てが家路に、輝く未来に向かう一歩にすぎない。敵を撃破して一緒に帰ろう。そしたら堂々と胸を張って、わたしたちは万難を乗り越えて任務を全うしたと、同胞市民に自慢してやろうじゃないか。では行くぞ、諸君！

*4 共和制ローマにおけるロムルス、レムスの兄弟、アメリカ合衆国の「巡礼始祖」(Pilgrim Fathers)を始めとして、多くの国家はその端緒を独立以前の文化英雄に求めることが多い。国家の正統性を強化するプロパガンダの表れである。

*5 公式設定によれば、21世紀に植民が始まったタイタンはEP世界の中では珍しく非ハイパーコープ系団体によって入植された星である。Eclipse Phase Rulebook 3rd Edition, p.79.



乗員一同 はい、艦長！
アリスター 忘れるな。わたしたちは勝つ！
乗員一同 アイアン・ダン、フラー！！

(場面、フェイドアウトする)

第五幕第二場

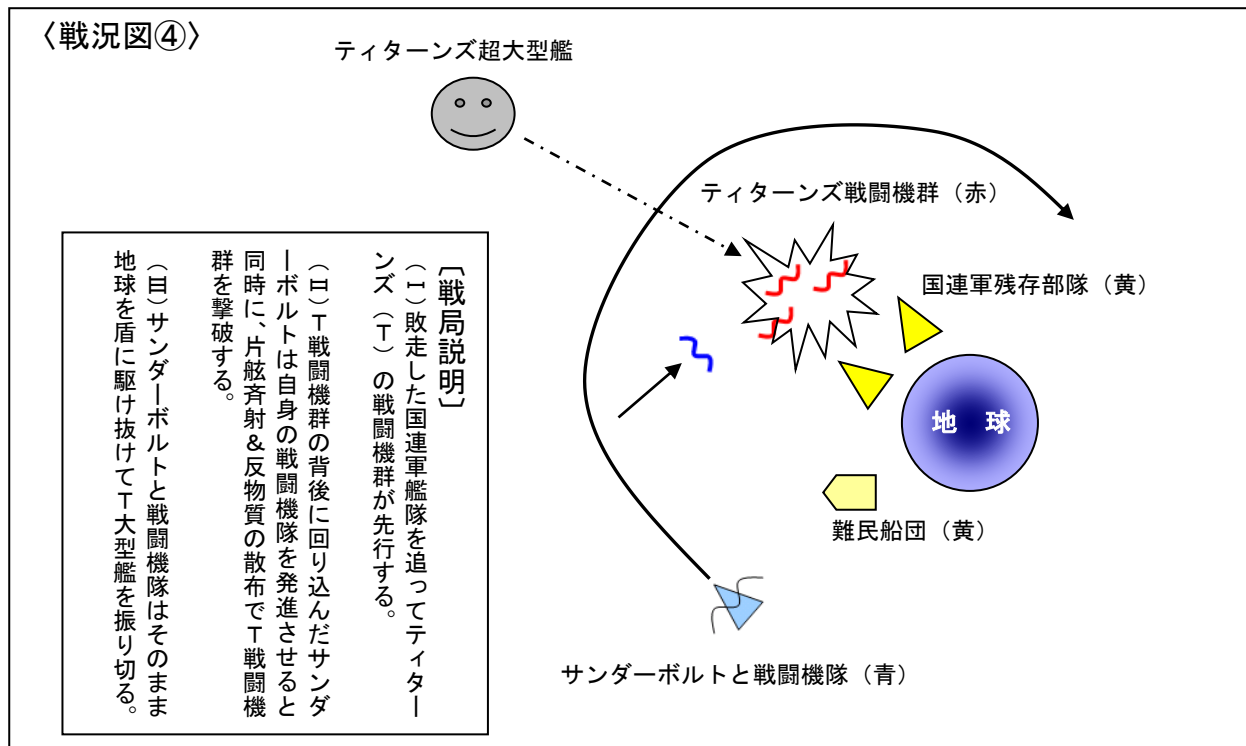
註

……そうして一たび戦争が起こりましたならば、もはや問題は正邪曲直の争いではない、是非善悪の争いではない、徹頭徹尾力の争いであり、強弱の争いである、強者が弱者を征服する、これが戦争である、正義が不正義を懲罰する、これが戦争という意味ではない、さきほど申しました第一次ヨーロッパ戦争に当りましても、随分正義争いが起こったのであります、ドイツを中心とする所の同盟側、イギリスを中心とする所の連合側、何れも正義は我にありと叫んだのであります、戦争の結果はどうなったか、正義が勝って不正義が敗けたのでありますか、そうではないのでありましょう、正義や不正義はどこかへ飛んで行って、つまり同盟側の力がつき果てたからして投げ出したに過ぎないのであります、今回の戦争に当りましても相変らず正義論を闘わしておりますが、この正義論の価値は知るべきのみであります、つまり力の伴わざる所の正義は弾なき大砲と同じことである、羊の正義論は狼の前には三文の値打もない、ヨーロッパの現状は幾多の実例をわれわれの前に示しておるのであります、かくの如き事態でありますから、国家競争は道理の競争ではない、正邪曲直の競争でもない、徹頭徹尾力の競争である、世にそうでないと言う者があるならばそれは偽であります、偽善であります、われわれは偽善を排斥する……。

— 斎藤隆夫「反軍演説」(1940) (原文旧字カナ、引用文は一部現代語に改めて句読点適宜加筆) quoted from "4-10 反軍演説 | 史料にみる日本の近代." 国立国会図書館. (<http://www.ndl.go.jp/modern/cha4/description10.html>)

(場面、再び艦橋。アルアミラルは音声のみ)

アリスター 通信班、ジャミング止め。通信回線開け。センサー班、追尾あるか？
センサー班 ありません。敵戦闘機群の機影なし。
通信班 回線オープン。
イム まずはうまくいきましたね、艦長。
アリスター これぞ「激水の疾き、石を漂わす」さ。おい、アレックス、付いてきてるな？
アルアミラル 全機、お前のケツ穴にくっついてる！ 上出来だったな！
アリスター だがこれからが本番だ。パイロット、バーニアめいっぱい噴かせ。水素惜しむな。加速続行。周回軌道から外れるなよ。



パイロット 了解。

戦術班 全砲塔、ビームバッテリーおよびミサイル装填完了。いつでも斉射いけます。

アリスター よし。レールガンに反物質榴散弾を装填。艦首砲門開け。

戦術班 了解。反物質榴散弾、装填開始、砲門オープン、開始。

アルアミラル これからどうする、アリスターさんよ。逃げるんじゃないだろうな。まだ親玉が残っている。船団が全滅しちゃうぞ。

アリスター 待て待て、策は、策は……策はある。いま考える、考える、考えろ……。

アルアミラル どんなんだ。もう地球を半周したぞ。次の突撃まであと九分だ。

アリスター 策は……魔女？……そうか！ ねえ、アルアミラル。「魔弾の射手」って知ってる？

アルアミラル 魔弾？ 何の隠語だ。

アリスター それじゃあ「荒野の用心棒」って映画、観たことな～い？

アルアミラル いったい何の……オイ、まさか！

イム 艦長。まさか、とは思いますが……。

アリスター フフフ、この前の艦内上映会のさ、ラスボスとガチのタイマン張るシーン、かっこいいって思わなかった？

イム はあ、なるほど。一騎打ちでありますか。恐れ入りました。

アルアミラル おいおい、あんなデカ物相手に真っ向から撃ち合いだと！

アリスター まあまあ、見てなさいって。パイロット。加速やめ。主エンジン停止で姿勢安定、慣性飛行に切り替え。現在のスピードで地球をまわって敵超大型艦を目視できるまで時間どのくらい？ それと戦術班。レールガンだが、今から榴散弾やめて反物質徹甲弾に替えると、時間どれだけロス？

パイロット 主・補助両エンジン停止。一六二秒後に敵艦を目視可能。



戦術班 現在装填作業中。六一秒後に完了。徹甲弾に切り替えると二五二秒。

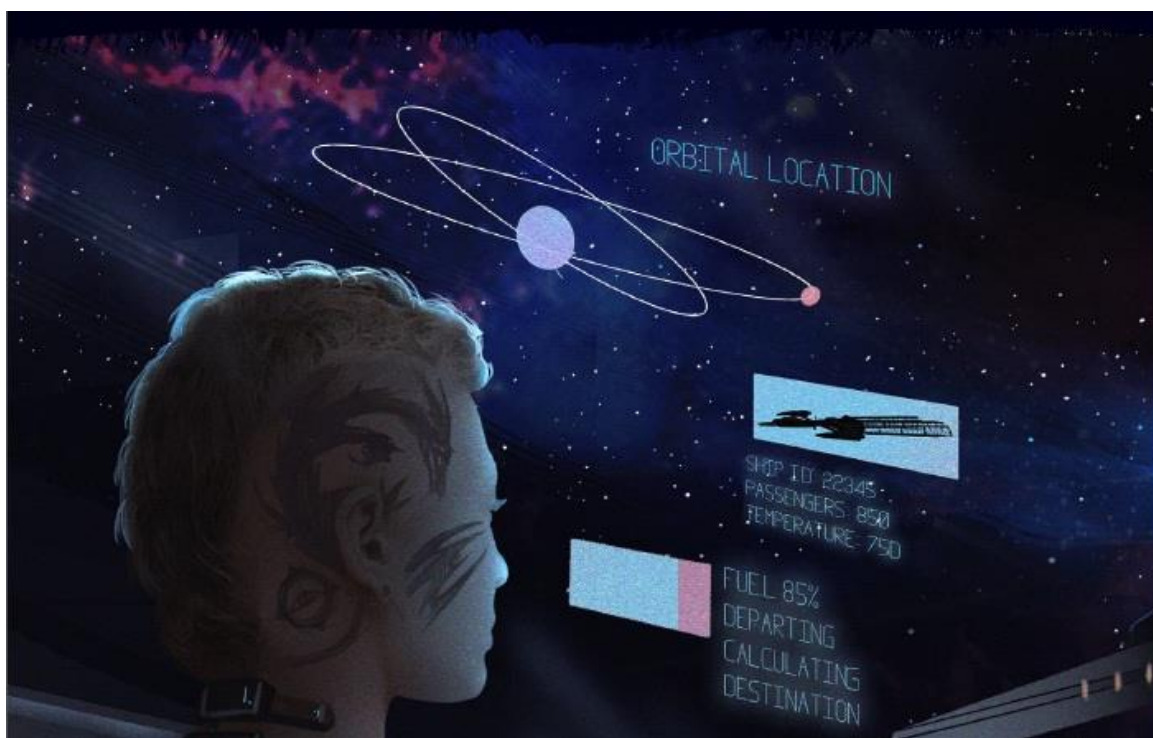
アリスター よし。戦術班。では現作業続行。次弾以後は反物質徹甲弾。あと別命あるまでレーザー使用禁止。それでエンジニア。レールガンの電磁コイルにバッテリー含めて全パワーまわせ。連射するぞ。おいパイロット。聞いたな。レールガンの目標はティターンズ超大型艦。照準は君の仕事。敵が地球から顔をのぞかせたら大気圏ストレスに撃て。補正計算はアルサンと相談。わかったね？ それでアルサン。照準の補正サポート頼む。砲弾は中間圏のギリ上を通せ。

戦術班 了解。

エンジニア 了解。

パイロット 了解。艦体姿勢、補正します。

アルサン 《まかせて!(^)!》



(Quoted from *Eclipse Phase: Rimward*, Posthuman Studios LLC., 2012, p.134)

イム 全艦に通達。こちら副長だ。全部署、非常電源に切り替え。レールガン発射に備えよ、繰り返す。全部署、非常電源に切り替え。レールガン発射に備えよ。

(艦橋の照明、いっせいに暗くなって赤いランプに切り替わる)

アリスター あと通信班。たしか地上の天文台サイトにアクセスしたな？

通信班 はい、艦長。

アリスター よし。では地上望遠鏡の何でもいい、六〇秒以内に二基乗っ取ってセンサー班に引き渡せ。それでセンサー班。そいつらで敵艦の位置を三角測量。位置は乗っ取り後の九〇秒で算出。データは随時アルサンに回せ。いいか、別命あるまで



アクティブセンサー使うなよ。

通信班 了解。ログイン中。

センサー班 了解。待機しています。

アルアミラル おい艦長。俺達を忘れるな！

アリストアー お子様は母艦のケツで行儀良くしてろ！ 当艦はレールガン射撃に電力を集
中する。ハエが来たら、お前らで喰え！

アルアミラル 了解だ！

パイロット 艦長。目標の詳細指定ありますか？

アリストアー ある。敵のレールガン砲身だ。船体構造上いちばんもろいと見た。どう思う、
エンジニア？

エンジニア 敵弾初速から推測して砲身長は四キロ以上ありますな。おそらく装甲帯を貫
いて敵艦の中心まで伸びているかと。艦長のご判断は正しいでしょう。

戦術班 ただ初弾は榴散弾です。貫徹できません。

アリストアー 選択を誤ったな、スマン。だがまず敵の攻撃手段を奪おう。敵レールガンの砲
身をつぶすんだ。次から徹甲弾。

イム ですが勝負を急ぐこともないではありませんか？ 少し待てば弾種交換の時間
をとれましょうに。

アリストアー フリーハンドならそうするよ。でもなあ、敵さん、そろそろ地球の都市を狙い
そうだろ？ 時は金さ。

イム しかし艦隊の集中運用でかえって大敗とは、国連の戦術AIも大したことはあ
りませんでしたな。

アリストアー さあてね。もしかしてワザと負けたのかも？

イム ほう、なかなか奇抜な御意見でありますな。なぜそうお思いに？

アリストアー 風さ。いや、匂いかな。(と目を閉じる)

イム 匂い？

アリストアー ああ、戦場には匂いがある。(と手をヒラヒラさせ) 風の匂い、光の音、エーテル
波のざわめき……いや、何でもない。(と手を振って目を開き) さあさあ、文句はあ
と。弾種交換に手間取ってミッドウェーの日本軍みたいになったら大恥だぜ。

イム むしろ泥くさい二〇世紀の戦車戦と言うべきでありますな。

アリストアー まったくもう！ 帆船時代の戦いとかって発想ないの？ カリブ海の海賊狩り
とかって、ロマンあって良いでしょ～。

アルアミラル コラ、このイカレ女！ もっとマシな作戦考えろ。梅毒が頭に回ったか！

アリストアー 与太話はそこまで、ムスリム！ 敵は近い。対空警戒を厳に！

アルアミラル まかせろ、艦長！

アリストアー 全部署に告ぐ。こちら艦長。当艦はこれよりレールガン砲撃戦を行う。だが敵
にも大口徑レールガンがある。勝利か死か、道は二つに一つ。いいな！

一同 了解！

パイロット 敵視認まで残り一二〇秒。

(全員があわただしくコンソールを操作し、ある者は青ざめ、ある者は平静を装いで、しかし全員、顔面に油汗を



(Quoted from *Eclipse Phase: Rimward*, Posthuman Studios LLC., 2012, p.158)

浮かべている。ただし居合わせる民間人二人だけは、キョトンとして事情が飲み込めないまま座席でとまどう)

孫 なんだ、なんだ。何するんだ？

カレン 私の方を見ないで。軍人じゃなくて教師なのよ。

アリスター フフフッ、副長。広報広聴こうほうこうちようの時間だ。民間人諸氏にこの戦術行動の概要を語
ってやれ。気が楽になるようにな。

イム はあ、了解。

孫&カレン あんたら、なにかヤバイことすんだろ。

 あのを、一体……？

イム 軍機ぐんきを開陳かいちんしますと、当艦サンダーボルトは、大まかに言って万年筆まんねんひつの船体
構造をしております。外郭がいかくの複合装甲で船体を支え、中軸ちゆうじくに相当する部位には
レールガン砲身ほうしんが埋め込んであります。今回はこのレールガンを使用するの
であります。

孫&カレン それで？

イム 当艦のレールガンは、全長二一九メートルの電磁コイル体によって磁界じかいを
発生させ、電磁誘導じつたいだんで実体弾を打ち出す兵器であります。自治大学新領域分野しんりょういきぶんや
とタイタン国防省とで共同開発されました当艦のレールガンから徹甲弾てつこうだんが発
射される時、砲弾自体に内臓された反物質ジェット推進機関はんぶつしつ すいしんきかんと相まって、初速
は光速の六%に達します。微惑星びわくせいさえ破壊するのであります。

孫 なんてショッパナから使わねーんだよ、そんなスゲー武器。



- イム よい質問だ。実は遺憾ながら三つ欠点がある。これは軍機であるからして、決して部外には公開しないでくれたまえ。誓えるかね？
- 孫 おお、いいぜ。でどんな？
- イム 第一には、レールガンの主要システムである電磁コイル連続体は大量に電力を消費する。連続発射となると総発電量の九二%を投入する必要がある。そのせいでレーザーその他エレクトロニクス機器の使用に制約が課される。
- 孫 へえー、でお次は？
- イム 第二には、艦首方向にしか撃てない。一度に一発ずつ、安全動作温度を保つなら三一〇秒間隔である。射撃速度を上げると、冷却機構がシステムエラーを起こし砲身誘爆の危険が生じる。最悪の場合は船体の前半分が吹き飛ぶであろう。
- 孫 なんかダメダメ兵器じゃーん。で三つ目って？
- イム 第三には、レールガンの砲身が船体に据付けである以上、砲弾装填、照準、発射の全プロセスにおいて、サンダーボルトの姿勢を安定させる必要がある。レールガンの使用中は推進機関を停止させねばならず、攻撃を受けても回避できない。
- 孫 全然ダメじゃん！ 使えねーぜ。
- パイロット 敵視認まで残り六〇秒。
- イム 従って使用に際して時と場所を選ぶのであるよ。
- 孫 今がその時と場所ってことか？
- イム そうだ。当艦のレールガンは、通常弾以外にも、近接信管を備えた七二発の反物質内臓子弾を有するクラスター式榴散弾を投射するか、または直径一二〇ミリメートルの同じく反物質内臓徹甲弾を発射可能だ。卑近な言い方に換えればショットガンとバズーカ砲のどちらにもなることができる。今回は、第一撃で榴散弾によって敵の兵器を叩き、次いで徹甲弾によって敵の中枢を仕留めるのである。
- アリスター なにせ反物質だしね。当たればキレイな花火あがるぜ。
- カレン なんて……なんて恐ろしい武器……ねえダン、それ大量破壊兵器よ。
- アリスター 放射能の出ないクリーンな兵器だけど。で何か？ (と無表情)
- カレン タイタンはそんなものをつくったの？ 平和を求めているんじゃないの？
- アリスター 求めてる。だからつくった。平和をこわしたいんじゃない。でも民主主義国家にとって恒久平和とは、まず平和国家としての独立だ。一国の平和っていうのはね、勝者に好き勝手させないストッパーを持つ、っていうことだよ。
- カレン でも、でも武器じゃない方法だってきっとあるはずよ？
- アリスター ああ、あるとも、ビワ。(と寂しく笑い) 話し合いとか契約とかね。発展途上国の平和って、実物見たことある？ ハイパーコープのエージェントが子供や貧乏人をかき集めて、インチキな契約書にサインさせたら、工場とか売春宿で年中無休のボランティア。それが強い者の餌食になる国の、途上国の平和。どんな契約を結んだって、力の裏づけがないと、相手の意のままに騙されてしまう。そんな平和が欲しい？
- カレン あのね、イムさんに教えてもらったわ、火星の話。タイタンと海賊の話。そう



ということならもう分かる。ダンだって火星に行ったんでしょ？

アリストター そうか。なら話が早い。平和が悪いんじゃない。けど平和の中の何もかもが良いわけでもない。アメリカで南北戦争が無かったら、わたしみたいな黒人ハーフなんて、今の今でも奴隷だったかも。みんなは平和って言うけれど、金持ちどもの平和のために、黒人たちや子供たち、いったい何人死んだろう？

カレン そんなの、わたしには答えられないよ。もしかして地球を責めてるの？

アリストター 責める？ そんなんじゃない。でもね、何かと言えばカネ、カネ、カネ……そんな「ハイパーコープの平和」(Pax Hypercorp-ica) が平和なのか？ 宇宙には違う形の平和が、みんながもっと幸せになれる平和があるはずだ。わたしたちの宇宙平和は、わたしたち宇宙市民の手でつくりたい。戦闘空母サンダーボルトは、インチキな平和に殺されていった人たちが、弱い市民一人ひとりが、ここにいるみんなが造り上げた、平和のための艦なんだ。(と立って周りをゆっくり見渡す)

イム その通り、まさにその通り。(と幾度もうなづく) 罪なき多くの民草が金持ちどもの平和によって殺されたのであります。我が父も母も殺されました。(と涙をぬぐう) 首相閣下も仰っています。この太陽系を守銭奴の好き勝手にさせてはなりません。主イエスの名にかけて、いずれ、いずれ目に物みせてやりましょう。そうであるな、みんな。

(乗員一同、アリストターとイムに向かってうなづく)

カレン ねえダン。それにイムさん。(と冷静に) あのね、気持ちはわかる。けど相手だってもっと強力な武器を用意しない？

アリストター そしたらタイタンは軽軍備政策を完全にやめて、力で対抗するだろう。パンにはパンを、血には血を。軍拡の「エスカレーション」だ。(と座る)

カレン それって虚しくない？ 技術はどんどん進むけど、人の心は、争いや憎しみはちっとも変わらない。(と寂しそうに)

アリストター うん、虚しい。(とうなづく) けど、他にどうすればいい？ わたしたちは征服したいんじゃない。でもハイパーコープはわたしたちを征服したくて、あの手この手で侵略をしかけてくる。どうすればいいと思う？

カレン わからない。けどね、本当に平和が欲しいなら、武器にはできないこともしないと。どんな相手にも、希望を持ってその人たちに手を差し出すってことは、武器には絶対にできないと思う。でないと、きっと、きっと……。

アリストター でないと何？

カレン 血を吐きながら続けるマラソン。ゴールはどこ、ダン？ (と静かな声で)

アリストター 未来だよ、親友。(と小声で) 力に頼り過ぎず、みんなの思いやりを頼みにする技術社会は、始まったばかりの実験だ。でも一〇〇年後には必ずゴールが見えてくる。ヒトもAIも、みんな手を取り合う本当の宇宙平和が……。

パイロット 敵大型艦視認まで残り一〇秒、九、八、七……。

戦術班 レールガン発射準備、最終プロセス中。

通信班 地上の望遠鏡、乗っ取り完了。センサー班に引き継ぎます。



センサー班 アカウント受領。望遠鏡、操作中……所属不明機影、直上と直下！ 数五一と三五。距離……。

アルアミラル 見えたぞ！

アリスター 戦術班。直上目標^{ちよくじょう}に対しミサイル^{せいはつ}斉発！ レーザー使用許可。戦闘機隊^{ちよつか}。直下目標を迎撃！

戦術班 了解。対空射撃開始。

アルアミラル 了解。全機、デルタ・フォーメーションで俺に続け！

戦闘機隊 了解！

センサー班 直上と直下の戦闘機、ミサイル発射。全弾、当艦を指向中。

アルアミラル 全機、ミサイルを攻撃。繰り返す、ミサイル^{めら}を狙え！

センサー班 敵ミサイル着弾まで二秒、二一、二〇……。

アリスター アルサン。防御くぐって敵ミサイル何発来る？ 概算でいい。

アルサン 《八発プラスマイナス三発う(>_<)》

イム 艦長。エンジン始動しますか？

アリスター 却下。装甲で耐えよう。レールガン発射が最優先。戦術班にパイロット。ミサイル着弾前に撃つぞ。

パイロット 船体姿勢補正中……あ、クソ、なんでズレル……。

アルサン 《射撃解析完了！ \(-o-\)/》

アリスター エンジニア。レールガンとアルサンに電力回せ。他は二の次。電力は規定値の一六〇%をリミット。戦術班。レーザー砲塔は随時カット。こまめに節電だ。

戦術班 了解。

センサー班 敵超大型艦、視認。こちらにレールガンを指向！ ああつ、敵艦発砲。敵艦レールガン撃った！

エンジニア 艦長。電力消費量が規定値七九%オーバー。バッテリーもちません。二八二秒後にパワー切れ。

アリスター センサー班。敵弾を追え。了解だ、エンジニア。

イム どうした、パイロット。ロックオンはまだか？

パイロット すぐつす。あとちよつとで済みます。クソッ、あとちよつと……。 (とディスプレイにかじりつく)

(パイロット、額から汗ふきだす。彼を含めて全員宇宙服を着用しており、ぬぐうことができない)

パイロット ジャマだ…… (と汗ふこうとするが、ヘルメットできえぎられ) クソッ、クソッ、サクサク動けっの！

センサー班 敵レールガン砲弾着弾まで二〇秒。敵ミサイル着弾まで一三、一二……。

イム 艦長。敵弾来るであります。早く撃たなくては。

アリスター 待て待て、あわてるな。落ち着け、パイロット。 (とパイロットに駆け寄る) 力を抜け。いいな。 (と肩に手を置く)

パイロット は、はい、艦長。船体姿勢補正中。

アリスター パイロット。深呼吸。 (とやさしく)



パイロット はい、艦長。(深呼吸)
センサー班 敵ミサイル着弾まで八、七……。
アリスター もう一回。(とやさしく)
パイロット はい！(深呼吸し作業続行)
イム パイロット。早く！
アリスター どうだ、いけるか？(とパイロットの肩をたたく)
パイロット 目標ロックオン。自動追尾モードに移行。
戦術班 レールガン発射準備完了。
センサー班 前方クリアー。障害物なし。
アリスター レールガン、テーッ！
戦術班 レールガン発射！
センサー班 敵ミサイル着弾、ただ一今！
イム 総員、被弾衝撃ひだんしょうげきに備えよ！

(船体、大きく揺れて傾く。ライト、またたいて消灯)

孫&カレン キャー、ウワー！
アリスター 状況報告！
イム 第八、一三、一四、一五デッキに破口。艦内気圧低下。ダメージコントロール全班出動せよ。該当デッキの隔壁かくへき、緊急閉鎖。パワープラント出力低下中。九六%、九五、九四……。
戦術班 右舷砲塔群一四%ダウン。左舷砲塔群三〇%ダウン。
パイロット 船体姿勢補正中。再発射に備えます。
センサー班 敵レールガン砲弾着弾まで一三秒、一二、一一……。
イム 待て、パイロット。エンジニア。補助エンジン始動ヨーイ。艦長。敵弾を回避しては。
アリスター それと電力だ。エンジニア、おいエンジニア！
エンジニア エンジンは無事です。電力は九〇秒ください。
アリスター よし。補助エンジン緊急始動。進路三四〇、マーク〇〇〇、行け！
エンジニア 補助エンジン始動。
パイロット 了解。発進します。

(船体、小刻みに揺れる。ライト、点灯する)

センサー班 敵レールガン砲弾着弾まで一〇、九、八……。
アリスター 当艦の正面シルエットは小さい。初弾命中しよだんめいちゆうはまずないさ。
イム そうであってほしいでありますな。
アリスター 全部署に告ぐ。こちら艦長。当艦はレールガンを射撃。だが敵もレールガンで撃ってきた。敵弾回避したら、安全プロトコル全部無視して、残り……アルサン、敵はあと何秒で撃ってくる？
アルサン 《推定一二八秒っ(+_+)》



アリスター ありがとう。次の敵弾タイムラグを考え、当艦は残り一〇秒で次弾撃つ。異論
反論は戦闘終了まで取っとけ。レールガン再射撃が最優先。いいな！

エンジニア 艦長。一点だけ。冷却なしのレールガン再発射はプラズマ流出のリスクが。

アリスター 当艦一隻で地球が助かれば安い。うまくいったら、みんなで祝杯だ！

エンジニア そいつはいいや！ 電力回します。

アリスター 戦術班。任意に射撃続行。センサー班。当方レールガン砲弾を追尾。

センサー班 敵レールガン砲弾着弾まで七、六、五……。当方レールガン砲弾、正常に飛行
中。命中まで一四、一三、一二……。

アルアミラル ミーシャ、右をやれ！ 第二小隊、回り込め！ 第三小隊……。

イム ダメージコントロール班β。そこはバイパスして第六デッキに行け。レールガ
ン機構を点検せよ。最重要任務だ。ダメージコントロール班θ。君らも……。

アルアミラル うまいぞ、第三小隊！ ターニャ、五時に敵機！ ウワッ！

(突然、舞台全体が閃光で包まれる。数秒間の強烈な光のあと、ふたたび非常灯に戻る。その後、舞台は衝撃で揺
さぶられる)

アリスター 状況報告！

イム 全部署、被弾なし。繰り返す。被弾なし。

(衝撃おさまる)

アリスター センサー班。なんだ、今のは！

孫 なんだよ、あれ。怖えよオ……。 (と身を縮ませる)

カレン こわくない、こわくない。心配ないよ、孫君。 (と孫の腕をさする)

センサー班 センサー攪乱されてます。リセットして目視で確認中。

アルアミラル 戦闘機隊、損害なし！ 何が起こった！

イム 敵弾はどうした。センサー班。確認しろ。

センサー班 光学スキャン中……発見できず。消失。

イム 何だと？

アリスター なぜだ？ 再スキャンせよ。

戦術班 艦長。敵戦闘機が混乱しています。

アルアミラル 敵め、まごついでるぞ！ シュトゥールム！

戦闘機隊 ナパジェーニナ！

どけ、それは俺の獲物だ！

下のはアタシの！

撃墜！ 撃墜！

タリーホー、タリーホー！

センサー班 再スキャン中……発見できず。

アリスター 待てよ、待て待て。センサー班。こちらの砲弾は？

センサー班 同じく発見できず。消失。

イム ステルスか？



アリスター　　なぜだ？ 理由があるはず……待てよ。センサー班。スキャンログ見せてくれ。(と立ち上がってセンサー班のコンソールに近づく) 戦術班、エンジニア。レールガン発射手順続行。パイロット。加速停止して照準。いいな。

乗員一同　　了解！

アリスター　　さてさて (コンソールを覗いて) ……ふーん……どう思う、これ？

センサー班　　はい、艦長。これは仮説ですが……。(とアリスターと小声で話し合う)

アリスター　　……そうか、なるほど。おそろしい偶然だな。なあ、副長。もう大丈夫さ。スペクトル^{かいせき}解析だ。ククク……ハハハ！ (と笑い、腰に下げたパッドを放ってよこす)

(パッド、無重力状態なのでそのままイムの席へ飛んでいく。イム、げげんな顔で受け取る)

イム　　はあ、全周波数にわたったバーストでありますな。(とパッドを覗きこむ)

アリスター　　わからんか？ このパターンは物質=反物質の……。

イム　　……そうか、対消滅^{ついでしょうめつ}でありますか！ (と顔をあげて)

アリスター　　こういうの、何ていうんだっけ？ ほら、銃撃戦^{じゅうげきせん}とかの。

イム　　かち合い弾であります、フーツ。(と深く息を吐く) どうやら、あなたというおかげで、一生分のスリルをこの二四時間で体験できますな、艦長！ (と同じく笑う)

乗員一同　　いやー、危なかったなあ。

《確率だと〇. 〇七%くらいかなー(∧・∧)》

ラッキーにもほどがあるぜ。

アリ姉^{あに}ってば、ホント魔女だよね。

(乗員一同、クスクス笑ったり、肩を叩き合ったり)

アリスター　　よくやった、みんな！ だが本番はまだまだ。気を抜くな！

乗員一同　　了解！ (と明るい声でキビキビ働く)

アリスター　　ありがとさん。(とセンサー班の肩をたたいて席に戻る)

センサー班　　いつでもどうぞ。(と声をかける)

(アリスター、着席)

イム　　しかし敵戦闘機はどこから来たのでありましょうか？

アリスター　　おいおい、副長。相手は練達^{れんだつ}の戦術AIだぜ。さっき撃ちもらった残存か後続なのか、こっちの動きを読んで待ち伏せたのさ。「戦いの日、戦いの地を知れば」か。やっぱティターンズは強いね。

イム　　敵は明らかにエンジンを狙っておりましたな。戦闘機で足止めして大口徑砲^{ほんめい}が本命とは油断なりません。巧妙^{こうみょう}な事前調整^{じぜんちようせい}でありました。

アリスター　　おそらく偵察衛星^{ていさつえいせい}あたりを乗っ取ってこちらを監視してたんだろう。

イム　　すると当艦はなお敵の手の内にあるのですな。

アリスター　　だが今度はこっちの番さ。「侵略^{しんりやく}すること火のごとく」、敵さんに返礼だぞ！

イム　　了解！

(アリスター、腹を抱えて、また引きった笑いを)



孫 なんだ、なんなんだよ？ どうしたんだ、艦長さん。(とびびる)
カレン ねえ、ダン。そんなに笑いすぎて、身体によくないんじゃない？
アリスター クククッ、偶然の勝利、事故的回避だ。あんなに悩んで、結局まぐれ……これが笑わずにいられるか、「^{ひょうざん}廟算」が聞いてあきれ、クククッ……。 (と笑い続ける)
イム オリンポス山海戦を思い出しますな、艦長！ (とニヤリと笑って)
孫&カレン いったい何なの？
イム 交通事故であります。
孫&カレン 事故って何？
アリスター 弾と弾のね。当艦のと相手のが真っ向からバーン。(と左右の手を軽くあわせて) 脇見運転、事故のもと～。クククッ。

(孫&カレン、あっけにとられる)

戦術班 徹甲弾装填中。
パイロット 船体姿勢補正中。
イム 全ダメージコントロール班に告ぐ。レールガンの冷却システムを人力で支援せよ。消火用アルゴンガスで砲身を冷やすのだ。
戦術班 パワー充填中。冷却プロセス迂回。九九秒後に発射可能。
アリスター 戦術班、パイロット。可能となり次第、敵レールガンを撃て。副長。そろそろダメコンチームを船体後部に待避だ。走らせろ。
戦術班 了解。
パイロット 了解。
イム 了解であります。全ダメージコントロール班および船体前部の全乗員に告げる。レールガン発射六〇秒前で全装備放棄し、船体後部に急ぎ退避せよ。レールガンからプラズマが^{ふんしゅつ}噴出する。繰り返す。船体前部の全乗員は発射六〇秒前で装備放棄、船体後部に退避せよ。
アリスター 戦術班。レールガン冷却効率、規定値の二〇〇%に上げ。それとレールガン第三射の用意。エンジニア。電力消費は逐一報告。
戦術班 了解。再設定中。
エンジニア 了解しました。現在の電力消費量一七％。なおも上昇中……。
アルアミラル 敵機が退くぞ。全機追え！
イム 待て、ロシア人！ 艦長。援護に^{えんご}連中が必要かと。
アリスター おい、アレックス！ 一八〇秒だけ追撃。それ過ぎたら戻れ！ 戦術班。全レーザ砲塔落とせ。節電だ。
戦術班 了解。
アルアミラル 了解だ！ 全機、俺に続け！
パイロット 目標ロックオン。自動追尾モードに移行中。
アリスター やっぱ脇見運転は良くないね、ウンウン。(と勝手にうなづく)
孫 弾と弾がバーンって、んなこと、あるかあ？
イム ヨンサンの戦争記念館で見たことがある。戦場で見たいとは思わないが。



アリスター まったくだ。偶然ってすごいねえ、ン？

カレン それでこの後はどうするの？

アリスター 簡単さ。もう一回撃つ。

孫 撃ってどうすんだ？

アリスター これから使用するの**は**バンカーバスターを改造したイリジウム同位体徹甲弾だ。そいつが敵のレールガン砲身にあたれば、貫徹して中心部に到達する。おそらく敵艦の中心に核融合炉か何かの動力源があるはずだ。そこに……。

孫&カレン そこに？

アリスター 反物質が飛び込んでドッカーン。連鎖反応が起こってジ・エンドさ。

孫 それって俺らの勝ち？

アリスター もしくは外れて、逆に敵の砲弾でこっちが木っ端微塵かも。わたしたちの身体はバラバラになって、永遠に宇宙をさ迷うチリになるってわけ。それはそれでロマンあるよねえ、クックク……。 (と笑い)

孫 ウェ～っ、俺、ヤだなあ。艦長さん。頼むよう～。

イム ダメコン班および船体前部乗員、退避開始。

アリスター シーッ、「男は度胸、女は愛嬌」でしょ。さ、ボク、シートベルト締めようね。

孫 俺、ボクじゃねえよう……。

カレン ねえ、ダン。そのう、つまり、わたし達は……。

アリスター わたしたちは？

カレン 死んでしまうの？

アリスター いいや。けど作戦に誤算は付き物だから、チョコっと言い訳しただけ～。「兵は国の大事、死生の地」。だから死んだらゴメンね、愛しのカレン殿。 (と嬉しそうにウインク)

カレン なにが「チョコっと」で「ゴメン」よ、もう！ 正気じゃないわ！

アリスター カレン殿、キチョウナゴイケン、カンシャ、イタシマス。(インチキ日本語風に) ククク、ハハハ！ 「人みな我が勝つゆえんの形を知るも、我が勝ちを制するゆえんの形を知ることなし」、アハハ、ハハハハッ！！ (と高笑い)

乗員一同 アリ姉、またまた絶好調だな。
サディストなに考えてんのか、ホントわかんねえなあ。
《ゼッターあの人、戦争狂ってヤツだよね(～`)》

(とみな小声で)

カレン もう、ダンってば！ もっと真面目に戦争してよ！

(乗員一同、大爆笑。イム、半ば笑いながら頭を下げる)

イム ミズ枇杷坂。すみません。うちの艦長、時々こうなるのであります。もしかすると昔からでありますか？

カレン そうなんです。ダンったら、厄介ごとを持込むのが性分なんですよ。皆さんも大変……。



アリスター レディース&ジェントルメン、無駄口はそこまで！ 副長。レールガン爆発に備えて隔壁閉鎖。

イム 全部署、自動閉鎖モードに移行済み。

パイロット 自動追尾モード完了。

戦術班 レールガン発射準備完了。

センサー班 前方クリアー。障害物なし。

アリスター よし、やれ！

戦術班 発射！

(場面、フェイドアウトする)

第五幕第三場

註

……むろん、プロパガンダは権力を維持、発展させる手段であることも言をまたない。そもそも現代におけるプロパガンダのメッカは、ナチスのゲッペルスである。ヒトラーを偶像化し、ナチスの言説をすべて正義とする。その洗脳のPR手法は、ハリウッドに受け継がれ、「米国は常に正義」のプロパガンダにも一役買っている。

— 三浦博史『洗脳選挙 選んだつもりが、選ばされていた！』(2005)

<http://www.amazon.co.jp/dp/4334933513>

自己欺瞞の源をなす鈍感さは、統治のなかできわめて大きな役割を果たす要素である。これは、偏見のまじった固定観念を抱いて状況を判断し、他方そういう概念に反する兆候はどんなものでも無視するか拒否してしまう態度のことだ。つまり、願望にしたがって行動し、事実によって進路を逸らされまいとする。この態度は、元首のなかでも鈍感さの最たるものを示したスペインのフェリペ二世について、ある歴史家が述べた次の言葉に要約されている。「自分の政策の失敗を身をもって経験しても、その政策を本質的に卓越したものと考える彼の信念は揺るがなかった」。

— バーバラ=W=タックマン『愚行の世界史』(1987)

<http://www.amazon.co.jp/dp/4122052459>

(場面、再び艦橋。イム、アルアミラル、カレン、孫の他、大勢の乗員が集まっている。艦橋のいたるところが壊れ、ひび割れている。集まっている皆のかなりが、手にプラスチックの袋を持っている。彼らの前には、大写しになった何かの式典の映像が。そこには礼服や軍装に身を固めた無数の人が列席している)

流れる音声 《本日早朝におけるティターンズとの戦闘によって多くの犠牲を出しながら、国連軍はついに勝利をおさめました。まだ一步に過ぎませんが、人類はたしかに強力な反撃によって希望への道を歩み始めたのです……》



孫 艦長さん、どこにいるんだ？ こんな多くっちゃ全然見えねえよ。

カレン シーツ、もうすぐよ。ほら、勲章を渡すところ。ダン、その辺にひかえてるんじゃないの？

AGI アルサン 《あと数分の辛抱ですよ。リラックス、リラックス(^^♪)》(と無音メッセージ)

イム しかし本来ならこんな豪勢な式典をする前に、敵の残存戦力を叩くべきなのでありましょうに……なるほど士気高揚の意義はありますが。

(と横からアルアミラル登場。手にはプラスチックの袋があり、そこには「スーパードライ」のラベルが)

アルアミラル 俺は逆の意見だ。式典も悪くあるまい。

イム ほお、なぜであるか？

アルアミラル 第一に国連軍には、特にサンダーボルトには補給と再編が必要だ。船首があんなにねじ曲がって攻撃も何もあるまい。ティターンズを天高く吹っ飛ばした代償としては安いが。

イム 少々やりすぎたがな。それで？

アルアミラル 第二にあの女は大したタマだ。ちょっとくらいチャホヤされていい頃だろう。それに国連の招待を断るわけにいかんしな。違うか？

カレン まっ、ダンのハチャメチャぶりが健在だったのを見ただけでも、すごかったわね。

孫 うん。モノホンの宇宙戦、すげえなあ！ これで俺スターファイターだぜ！

カレン あれっ!? 孫君オシッコ漏らしてたんじゃないかった？

孫 (ムキになって) そんなわけねえだろ！ ガキじゃねえんだ！

イム おっ、いよいよのようである。諸君、静粛に。静粛に。(と乗員一同に)

流れる音声 《……ではご列席の皆さんに、本日の勝利の立役者をご紹介します。おそろくは今に生きる人類最高の指揮官、我々のホープ……》

カレン ダン、ダン、ダン……。 (と小声で)

AGI アルサン 《ダン、ダン、ダン\ (^o^)/》(と無音メッセージ)

乗員一同 ダン、ダン、ダン……。 (と続くように)

アルアミラル イカレ艦長のダンに乾杯だ！ (とプラスチックの袋を掲げる)

乗員一同 アイアン・ダン、フラー！フラー！！

流れる音声 《国際連合高等弁務官にして、不死身の超人ジョージ＝リチャード＝ケント殿です！ さあ皆さん、偉大な勝者を拍手でお出迎えてください！》

(式典の映像の随所に、国連とアメリカ合衆国の国旗がはためく。アメリカ国歌のブラスバンド演奏が流れる中、さわやかに手を振りながら走ってくるハンサムな白人男性。式典の列席者は割れんばかりの拍手と歓声を。その白人が式典の中央に上つらえてあった演台に上がると、観衆は静まりかえる)

ケント 《皆さん。同胞の皆さん。告白しよう、私ことケントは演説が苦手だ。なぜなら常に正直さ、簡潔さを尊ぶようにしているからだ。しかし本日、この晴れの席、できる限りの努力をしてみよう。ほんのついさっき、憎むべきティターンズの戦艦を撃滅するため努力したように。どうかご清聴いただきたい》



(列席者、大きな拍手。ケント、手を上げると、あたりは静まりかえる)

ケント 《正直に言う。これがどれほど難しいか、私は政治の世界でよく学んだ。しかし同時にその大切さもよく学んだ。だからここで告白しよう。本日の戦闘はまったくの苦戦であった。しかし皆さん、私たちはこの聖なる星である地球を、地球人のみの手で、大きな犠牲を払いながら守りぬいたのだ。ここにいあわせることができ、あるいはできなかった人の全てのおかげで、私たちは本日、勝利を得たのだ。皆さん、私たち地球人は、宇宙に勝利した。これは特定の個人、特定の国家の勝利ではない。私たち地球人、その全員が勝利者なのだ》

(列席者、大拍手と大歓声。ケント、もう一度手を上げると、あたりは静まりかえる)

ケント 《またまた正直に言おう。戦闘開始前から、私は敵を地球近くにひきつけ、そこで撃滅しなければ勝てないだろう、と確信していた。旗艦アイオワに座乗して練った作戦は、初めは敗走を偽装して、ティターズをなんとかして地球の重力井戸におびき寄せ、そこで地上砲台と連携して殲滅するというものだった。軍人の皆さん、作戦は極秘にせねばならず、君たちに多大な犠牲を強いた。この場でおわびする。全て私の責任であり、この程度の作戦しか発想できなかった私をどうか許してくれ。だがすべては、そう、偉大な目的のためだった。すべては、永久不滅の民主主義のため、言論と表現の自由、信仰の自由、そして恐怖からの自由のため、止むを得ない措置だったのだ。地球バンザイ！》

(列席者、大拍手と大歓声。ケント、両手を上げると、あたりは静まりかえる)

ケント 《あとは知っての通りだ。国連軍は史上かつてないほど奮戦力闘した。中でも目覚ましい活躍だったのは、やはり我がアメリカ合衆国の宇宙軍だろう。その他の EU 軍、中国軍、ロシア軍などなど、健闘を讃えるべき戦友には事欠かない。ところで戦友といえば、援軍として来たはずの地球外の部隊は、足早に退却してしまった。臆病風邪でもひいたのか。(聴衆からタイタンをあざ笑う声。役立たず、ウドの大木、云々と) だが皆さん、田舎の負け犬を赦してやろう。なんといっても地球は人類全体の善き父、善き母なのだ。そう、皆さん、地球人はみな戦友で、偉大な統治者なのだ。私は一人の戦士として、戦友の皆さんに挨拶を送る！ 太陽系の支配者、民主主義の聖地、栄光の地球に万歳三唱！》

(列席者、大拍手と大歓声。地球万歳、ケント万歳が鳴り響く)

ケント 《では最後になるが、皆さん、これだけは約束しよう。地球は立ち上がる。そして遠からぬ日に、究極の平和と正義を、宇宙にあまねく輸出するのだ。ガンバろう、地球！ 立ち上がれ、地球市民！ さあ私に続け！》

式典の列席者 ケント！ ケント！ ケント！ ケント！ ケント！

流れる音声 《さあ、ケント氏の演説が終わりました。大変謙虚な内容で、偉大な司令官とはとても思えない気さくな方でしたね。あっ、いよいよ勲章授与式がとり行われま



す。まずはアメリカ合衆国大統領閣下による……》

(映像が停止される。サンダーボルトの艦橋、静まりかえる)

通信班 国連軍から通達です。先ほど、エエッ!?……先ほど……。

イム うん? おい何であるか?

通信班 国連軍からの通達。艦長の……アリストア艦長の艦載艇が式場間際で墜落した模様。生存者……生存者なし。

(サンダーボルトの艦橋、静まりかえったまま)

通信班 あ、あの、副長。本国参謀本部発のメッセージを受信。き、緊急電です。申し上げますか?

イム ア?……ああ、聞かせてくれ。

通信班 は、はい、次の通りです。「**タイタン都市群**、**コンピュータ・ウイルスの攻撃**により騒乱状態にあり*6。国防省の被害甚大。現任務を中断して至急帰国されたし。なお艦隊アーカイブズの被災により、サンダーボルトの全乗員を始めとする海軍軍人のエゴ(人格)バックアップは全損の模様。ただちに貴艦乗員のエゴデータコピーを送られたし。詳細は添付資料を参照のこと」。以上です。

イム 了解……了解した。こちらの状況を返信しておけ。航海日誌、それから今のニュースを添付してな。(と静かな声で)

通信班 了解。送信します、ただ一今。

(サンダーボルトの艦橋、なお静まりかえったまま。皆、手に持ったプラスチックの袋を捨てる)

孫 ……なんだよ、これ、ジョークなんだろう?

AGI アルサン 《(I_ë) (I_ë) (I_ë)》(と無音メッセージ)

(艦橋の人々は次第に解散する)

センサー班 副長。L3の敵に動きあり。戦闘機、推量最低二六〇、急加速中。

イム なに? 総員、警戒態勢。(とチャイムが鳴る) 連中のコースは?

センサー班 はい、それは……それが!

イム どうした?

センサー班 本船団への迎撃コース。レーザー射程内まで推定一〇八〇秒。

イム 了解だ。こちら副長。総員、戦闘態勢に移行せよ。ティターンズが来るぞ。通信班。国連軍に連絡せよ。当艦、至急援軍を求む、とな。

(あたりはあわただしくなる。乗員はすばやく持ち場に付き、コンソールを忙しく操作する)

アルアミラル 副長。俺達は先に出る。だがミサイルの装着がすんでいない。どうする?

イム 当艦のミサイル残弾は乏しい。装甲も穴だらけであるし、ここは退却であるな。

*6 EP 公式設定によると、土星の衛星アイアペタス (Iapetus) もまたティターンズに攻撃されている。Eclipse Phase Rulebook 3rd Edition, p.104.



アルアミラル 同感だ。だが船団はどうする。ブタみたいな鈍足を抱えては逃げ切れんぞ。

イム では軍人として義務を果たそう。船団を月まで逃がす。我らはその後尾を守る。

アルアミラル 了解だ、それでいくか。では来世で会おう。(と退出する)

イム では来世で。(艦橋の乗員に向き直り) 諸君。当艦サンダーボルトは光栄ある護衛任務を最後まで全うする。通信班。船団に最大加速度で月へ向かえと指示出し。国連軍との回線接続を確認せよ。戦況は逐一、国連軍と船団全部に転送。センサー一班。ミサイル攻撃を警戒。戦術班。使用可能兵器をリストアップ……。

(忙しくなる艦橋の面々を尻目に、カレンと孫、席に座って話をする)

孫 なあ、カレン。

カレン ……。(呆然としている)

孫 カレン、カレン。(と彼女の服の袖を引っ張る)

カレン えっ? ああ、なに?

孫 俺ら、どうすりゃいいんだ?

カレン ……。(何か言いたそうにして口を閉じる)

(イム、二人に振り返る)

イム 二人ともすぐ退艦しなさい。艦載艇を用意しよう。それに乗っていくといい。

カレン&孫 えっ、退艦?

イム そうだ。艦載艇は速い。月まで二時間あれば着く。タイタン大使館に行きなさい。これを渡せば話が早いであろう。(と自分の軍服の肩章をちぎって渡す)

カレン 待ってください。まだこの船を離れるって言ったつもり、ないですよ。

孫 お、俺だってそうさ。最後まで残るぜ!

イム 聞きなさい。もう時間がない。ここは戦場になる。もうあなた方の出番はない。

カレン&孫 でも……。

イム これは……これは「艦長」命令である。従わない場合は力づくで追い出す。両名とも分かったな。

孫 そんなの、そんなの、ねえよ。俺、みんなとずっと一緒につてき……。

通信班 副長。国連軍へのメール、先方は受信を拒否ってます!

イム 何だと!? クソッ、地球人め! 本国への送信は?

通信班 完了です。

イム よし。おい海兵隊員。この二人をシャトルベイ No. II に連れて行け。艦載艇に乗せるのだ。君も乗って行って、大使館まで付き添え。いいな。

海兵隊員 了解。さあ、お二人とも。ご案内しますよ。

孫 やだよ、やだよ……メイファ死んで、艦長さん死んで、みんな戦うっていうのに、俺逃げるの、やだよ。(と泣き出す)

カレン いきましょう、孫君。わたしたちの時間は終わったのよ。あのう、あなた(と海兵隊員に)。彼の腕をとってください。

海兵隊員 了解です。(と孫の腕をつかむ)



孫 離せよ、離せよ！ 俺、残るよ、残るよ！ 残るでありますよ！
カレン さようなら、皆さん。ここまでありがとうございました。(と深々と一礼して去る)
イム 通信班。本国に追加電である。「我ら、目下ティターンズ大編隊の攻撃を受けつつあり。全力をもって船団を護衛、しかる後、帰国の途につかんとす。これをもって、我ら任務を完遂せり……。

(カレン、孫、海兵隊員、みな退出)

(少し時間が経過。場面は小さな艦載艇の中に移る。カレン、孫、艦載艇パイロット、海兵隊員が乗っている)

カレン 遠くなったわね……地球。船も見えなくなって。
艇パイロット 母艦の映像なら出せますよ。ご覧になりますか。
カレン ありがとう、でもわたしはいいわ。人の死は見すぎるほど見たもの。
艇パイロット 了解です。
孫 俺見たい。(と小声で)
艇パイロット 脇のパネルを引き出すといい。3Dで表示される。

(孫、パネルを引き出す。パネルには次の光景が表示される。地球をバックに、エンジンを大いに噴射して逃げ出す数百隻の船。その一番後ろに幾重にもきらめく輝き。輝きの中心には、捻じ曲がり、穴だらけになった空母サンダーボルトが。時々、小さな瞬きがその表面に光る。周りには無数の小物体が飛び交う)

孫 がんばれ、サンダーボルト。がんばれ、サンダーボルト。(と小声で)

(場面、サンダーボルトの艦橋に戻る。煙りがたちこめ、少なからぬクルー〔の死体〕が宇宙服をまとって漂う。その中央には同じく宇宙服を着たイム副長が、何かをつぶやきながらコンソールを激しく叩いている)

女の子の声 私たち、ティターンズです。ティターンズはみんなの味方、平和の使者。お願い、お願い、降伏してください。抵抗は無駄ですよ……。 (かわい口調で)

イム 降伏なんぞもっての外である。

(艦橋、大きく揺れる。照明がちらつき、赤い非常灯に切り替わる)

AGI アルサン 《副長。船体強度は三〇%に低下。艦内の全サーバーより不正アクセスの報告あり、(-`)/。艦の制御は完全マニュアルに移行中。全コンピュータの強制シャットダウンを勧告しますく(_)》 (と無音メッセージ)

イム 了解である。シャットダウン実行。アルサン殿、本日まで御苦労であったな。ありがとう。

AGI アルサン 《実行中。さよなら、イム。さようなら(;_;) / ~~~》 (とメッセージ消える)

イム さらばだ。いよいよ一人であるか。



Quoted from *Eclipse Phase: Rimward*, Posthuman Studios LLC., 2012, p.158)



アルアミラル (音声のみ) おい、イム! ……聞こ…るか、サン……ボルト、サンダーボルト!
イム こちらサンダーボルト! まだいたのか、ムスリム野郎。退却しろ!
アルアミラル 不信心者め、お前一人を英雄にしないぞ! ピッタリくっついてやる。
イム 死ぬぞ、それが望みであるか。船団とそっちの部下はどうなる!
アルアミラル 船団はもうすぐ安全圏内だ。部下は全滅した。俺一人さ!
イム ならお前一人でも逃げろ。死ぬ義理はあるまい。
アルアミラル さあてな。お前こそ、なぜ逃げん。ヤツの夢に当てられたか。
イム 艦長は、いや、ダンは、あの人の夢をお前に話したのか。
アルアミラル ああ、そうだ。あいつは俺に夢を見せてくれた。
イム 全ては夢であった。遠い……はるかに遠いな、我らの夢の国(ユートピア)は。
アルアミラル ああ、だが夢を追って死ぬのも悪くはあるまい。どうだ?
イム ロマンティストめ。ムスリムは自爆フェチであるな。
アルアミラル お前こそ。キリストの教えは自殺を禁じているだろ。
イム 誰かがあと数分間、敵の砲火を吸引しなければ。船団の後尾を守るために。
アルアミラル そういうことだな。因果な稼業さ、軍人とは。
イム そうではない。ユートピアに向かって駆けよう、最後まで!
アルアミラル いいだろう。その先に俺たちの勝利がきっとあるさ!

(艦橋、激しく揺れる。あちこちのコンソールから火花が飛び散る。イムの姿、煙りでかろうじて見えるか見えないか)

アルアミラル おかしなもんだな! 社会主義にかぶれた女のせいで、ムスリムと啓典の民が肩を
並べて戦うとは。世の中の仕組みはどうにも読めん! (と笑いながら)
イム 私には分かる。アリストア艦長は偉大な戦士であった。
アルアミラル そうだ、女としても面白ピカイチだしな。
イム アーメン。
アルアミラル アッラー、アクバル。
イム 突っ込むぞ。援護しろ。
アルアミラル おうよ! 脇は任せろ。
イム 主よ、天にまします我らの父よ。ねがわくは御名をあがめさせたまえ。御国
を来たさせたまえ。御心の天になるがごとく、地にもなさしめたまえ。我らの日用
の糧を、今日も与えたまえ。我らに罪をおかす者を我らがゆるすがごとく、我ら
の罪をゆるしたまえ。我らを試みにあわせず、我らを悪より救いたまえ……*7。
(とコンソールの「自爆コマンド」ボタンを押す)
アルアミラル 主よ、万物の主アッラーよ。私達に善いこと、美しいことをお与え下さい。
私達を慈悲をもっておゆるし下さい。地獄の処罰からお守り下さい。あなたこそ
慈悲ある方のなかで最も慈悲深いお方であられます。万物の主アッラーにこそす
べての称賛がありますように……*8。(声は次第に小さくなる)

(艦橋、さらに激しく揺れ、煙りが充満。アルアミラルの声、もはや聞こえない。イム、かろうじてコンソールにしがみ

*7 『新約聖書』「マタイによる福音書 6: 10」を参照。

*8 文体は『写真付イスラーム礼拝ガイド』(2002)の「ドアー(願い事)の例」より。



つく。舞台背景のスクリーンには「自爆まで残り 10 秒」と表示。と、彼の周りに大勢の人影が不意に現れる。みな美しい正装の軍服、穏やかな顔つきをして、イムを囲んでその肩を叩き、微笑みを送る。舞台は突然に明るくなる)

イム ダン、みんな……。

アリスター さあ、一緒に帰ろう。

イム はい、艦長！

(場面、再び艦載艇へ。孫、周囲から攻撃されてスクラップ状態になりつつあるサンダーボルトの映像を凝視する。サンダーボルト、突如としてまぶしい閃光を発する。宇宙空間なので音なし。閃光がやむと、そこにはもう何も無い)

孫 サンダーボルト……サンダーボルト……俺、約束するよ。アリスター艦長さん、イム副長さん、アルのおじさん、アルサン。俺、みんなを一生忘れないよ。もう悪いことしないよ。人のためになることするよ。約束だ、約束だよ……。 (と小声で泣く)



第五幕第四場

註

《ヨハン＝ハウエル（タイタン自治大学名誉教授）による追悼演説（AF0年）》

……アリスターらの死には、我々タイタン多元共同体、ひとしくその責を負わねばならん。しかしもっとも責められるべきは地球の権力者である。総じてサンダーボルトに対する地球のやり口は、蛇が蛙を狙うように、ずいぶん陰険冷酷を極めたものである。自前の艦隊は温存しながら、アリスターらに激務を押しつけ、休養をゆるさず補給をケチり、その最期に際してミサイル一発の助けさえ出さん。彼ら地球人は人類のためと言うつもりかもしれないが、天の眼から見れば、これは謀殺——謀殺だ……地球の救助に駆けつけた勇者に対する、ほとんど不意打ちの裏切り——否、裏切りではない、暗殺——暗殺だ。せめてボロボロになるまで戦ったタイタンの艦を見て、一滴の涙くらい流してよいではないか。なのにあの執念ぶかい嫌がらせはなんだ。遺体の回収、ネジー本のサルベージにも干渉する。秘密、秘密、何もかも一切秘密に押しこめて、遺族の立会いさえ拒む。できることならさぞタイタン市民を皆殺しにしたかったのであろう。否、アリスターらの身体を殺してタイタンの理想を殺しえたつもりでいる。彼ら地球の権力者は無神無靈魂の亡者で、無数の人々に尽くしたアリスターこそ真の永生の聖者である。しかし権力の亡者もその権力を信じきれんと見える、彼らも幽霊が恐いと見える、だからシェルターに逃亡する。むろん恐いはずである。アリスターらは死んだどころか、まだまだ元気に生きている。現に宇宙の片隅に寝ていたかくいう僕をここに連れてきて、まさに永生不滅の証拠を見せている。権力者は死んだ者も恐ければ、生きた者も恐い。タイタンや無政府主義派コロニーをあわてて誹謗中傷するなんぞ——その恐がりよりもあまりにアホらしいではないか。アリスターらはさぞ笑っているであろう。何百万の陸軍、何十万トンの海軍、幾万の警察力を擁した堂々たる地球の勢力をもってして、数えるほどもない、しかも手も足も出せん一隻の艦に対するおびえようもバカらしいではないか。人は弱味がなければめったに恐がるはずがない。アリスターら、瞑すべし。地球が君らを締め殺したその前後の無様なあわてざまに、地球の、否、地球をむさぼる特権エリート階級の正体は全宇宙に暴露されてしまった。

だが諸君、僕はアリスターらとは多少立場が異なる者である。僕は臆病で、血を見るのも流すのも嫌いである。身を守るためでも暴力は感心はできん。しかし軍人という職業には不同意であると同時に、サンダーボルトの乗員二二七名には死んでほしくなかった。ぜひ生きていてほしかった。彼らは軍人であるが、ただの軍人ではない。志士である。ただの人でも死んではいかん。まして彼らは前途有為の志士である。（次ページへ）

[参照：徳富蘆花。「謀叛論」。青空文庫。http://www.aozora.gr.jp/cards/000280/files/1708_21319.html]



註

(前ページより) ……ただの人でも死んではいかん。まして彼らは前途有為の志士である。自由平等の宇宙を夢み、身を捧げて祖国と人類のために尽くさんとする志士である。その行動はたとえ不適切でも、その志はむしろ憐れむべきではないか。彼らは社会主義の国タイタンの人々に仕えた。社会主義とは、富の分配の不公正を社会の欠陥と見て、自由平等のために公正なる再分配を試みることである。そんな社会主義の何が怖い？ 古今東西どこにでもある。しかるに狭量神経質な地球の権力者は、ことに貧乏人がストで不満を訴えると、ひどくおびえて弾圧を強くし、とうとう地球の権力者と社会主義者とは犬猿の間になってしまった。諸君、最上の帽子は頭について居心地のよい帽子である。最良の政府は人々の居心地をよくする政府である。帽子は頭にのせてもらっているのであって、頭をあまり押さえつけてはいかん。しかし地球の力は重いか軽いかかわらんが、貧しい者の頭にはひどく冷たく感じられて、とうとう彼らの一部は地球を棄てて無政府主義者になってしまった。そんな無政府主義の何が怖い？ 権力亡者よ、地球のセレブよ、君らは強くて金持ちなのに、何がそんなに恐いのか？

諸君、アリスターらは地球の権力者に危険人物と恐れられて殺された。危険を恐れてはならん。危険人物を恐れてはならん。新しいこと、偉大なことは常に危険である。ことわざにある、「天下に初め道はない。人が歩いて道となる」。危険は明日への道である。死もまた一つの道である。肉体の死はいまわしい。しかし真に恐るべきは靈魂の死である。他人に教えられたままを言い、命じられたままを行い、いずれ食われる家畜のごとく安心にかまけて一切の自立自信を失い、明日の危険に恐れおののく時、すなわちこれ靈魂の死である。諸君、我々は生きていこう。人生は突進である。アリスターらは突進して死んだ。死んで靈魂は復活した。墓は空虚だ。いつまでも墓にすがりつくのはやめよう。ナザレのイエスは言った、「もし汝の右目、汝をつまづかさば、抜き出してこれを捨てよ」。愛別、離別、突き進まねばならん。失敗してもかまわない。最後の勝負は我々の心の最も奥深いところで決まるのである。くり返し言おう。諸君、我々は生きていこう。生きるために危険な道を進んでいこう。自らのために、また周囲の人のために。

諸君、サンダーボルトの乗員二二七名はヒト・AIの別なく共に戦場の露と消えた。その行動が不適切だとして、なぜ志士としての彼らの志まで否定されるのか。諸君、フランスの若き志士ジャンヌ＝ダルクもまた悪魔と罵られて殺された。しかし今日となつて見れば、人格を永く敬愛されることジャンヌのごとき聖者がどれだけあるか。サンダーボルトはなるほど沈んだ。しかし百年後の宇宙は必ずその事を惜しんで、その志を浮上させるであろう。死者は甦るのである。人に尽くすのは正義である。要するに人格の勝利である。諸君、我々は人格をみがくことを怠ってはならない。

[参照：徳富蘆花。「謀叛論」。青空文庫。http://www.aozora.gr.jp/cards/000280/files/1708_21319.html]



(第一幕第四場と同じく、広々とした薄暗い会議室。その真ん中には非常に大きな丸テーブル、高級酒や料理が食い散らかしてある。テーブルの傍には豪勢な椅子が五つ、それぞれに上物の背広を着た男が座る。ある者は肥満し、ある者は痩せているが、一様に顔は薄暗さのせいによく見えない。男達は笑いながら話している。どこからともなく葉巻の香りが)

- 議 長** ではハイパーコープ連合の皆様。今回の勝利を総括しましょう。
- DA社** イヤ、ジつに最高でしたワ。ワが社の兵器の性能、今回の戦闘で大いに宣伝させれもろうタ。エエショーだったナア。
- CO社** まったくです。戦争は低強度的に継続するようすし、結構な結末でした。
- EX社** 本当ですよ。いまや戦争は最高の娯楽、最高のショーですなあ。だから言ったでしょう。メディアとセックスを制する者、これぞ世界を制す。とはいえ地球は、ショーの舞台としては、だいぶくたびれてきたようですが。
- F J社** それに各社の資産を載せた船団は無事に地球を離れたそうではないか。撤収が順調に完了したとあっては、今さら赤字公債だらけの地球経済に旨味などあるまい。投資はむしろ火星や小惑星帯にシフトすべきだ。
- SO社** そうです。さすがにあの星は投機の対象としては危険すぎます。公債の件ですが、当社はもう地球資産を損切りしましたよ。しかしあなたのところには悪いことをしました。人材を回収できないまま幕引きになりそうで。
- CO社** いえいえ。むしろ景気よく死んでくれて助かりました。天然素材の不良品を輸出しまくる地球のやり方にはウンザリしていたのですよ。彼らとの通商路は早々に切りましょう。さあ、いよいよ良質クローン人間のマスプロ時代です。
- F J社** ではダイエットといくか、星間社会の。
- SO社** 確かにそうです。あの財政破綻した貧民たちの星、海の水まで真っ赤な大赤字ですから。隔離しないと貨幣の乱発によるハイパーインフレ、宇宙に波及するのは確実です。
- DA社** ナらあんな骨董品は棄てダ。太陽系の未来は健全な資本主義経済でないトナ。
- 議 長** 採決しましょう。地球の隔離 (quarantine of Earth) に賛成の方は挙手を。(全員、挙手) なるほど。では地球はポイ棄て、と*9。
- 全 員** ハハハ、金の切れ目が縁の切れ目だ。(と笑い)
- DA社** ソウソウ、未来で思い出シタ。ところであん

《人間の量産》



(Quoted from "Define Your Character",
Eclipse Phase Rulebook 3rd Edition
(Posthuman Studios LLC., 2011), p.120)
<http://eclipsephase.com/releases>

*9 地球の隔離、その後の地球の荒廃については *Eclipse Phase: Sunword* (Posthuman Studios LLC., 2010), pp.46-59.



たのどこ、なんと言ったか、「**未来人計画**」(Futura Project)かナ。研究者を後援するとか何トカ。

CO社 ああ、それは皆さん企業や官公庁向けのクローン・エリートを量産する計画
でして。まあ見てなさい、明日の宇宙を担うのはスーパー人造官僚ですよ。

EX社 へえ？面白そうな企画ですね。うちもかませてもらっていいですか。

FJ社 うむ、是非うかがいたい。

SO社 そのエリートとは具体的にどういう対象ですか。

CO社 いやなに、後腐れのない連中ですね。例えば、ほら、事故死してもらったタ
イタン女いたでしょう。ああいった人材、他にも収容所で処刑された政治犯とか
をですね、その死体から遺伝子強化クローンをつくり、オリジナルのエゴ(人格)
をベースに才能を植えつけるのでして。風雲児とか天才児、そういうのが素材で
すね。これはね、あなた、即戦力になりますよ。

FJ社 あの女の暗殺は貴社の仕事だったのか。ふむ、やるな。ケントの馬鹿がまた死ん
だ時にはヒヤヒヤしたが。しかし今度のヤツのクローンはもうトチらんだろうな？

CO社 多少はエゴを矯正したので、ご容赦ください。それに無能セレブに辛抱する
のもあと僅かです。スーパー・エリート軍団が完成するまでのね。

SO社 すると、いずれ在庫一掃セールですか。彼にも値札がつきますか。(一同爆笑)

EX社 ところで例のタイタン女、まずまずの上玉でしたねえ。良かったら……。

CO社 味見ですか。お好きですなあ。構いませんとも。高速成長タンク内の義体
(morph)は二年で第二次性徴期に達しますから、じっくり品定めを……。

DA社 トもかく、宇宙のパイ取り合戦はすでに我々の独占場ということデ、今後も
小うるさい障害物に事故死してもらおうワ。オオっと言い間違エタ。一掃セール、
一掃、一掃。

全 員 結構、結構。(と高笑い)

議 長 さて皆さん。そろそろ次の議題に。地球がらみの国連やら国民国家は用済み
ということで、かねてよりの案件「惑星連合」(Planetary Consortium) プロジェク
トと新・基軸通貨「クレジット」(Credit) 導入のこと、いかがでしょうか。いよ
いよ太陽系の統治はハイパーコープが担うということデ。

全 員 いいだろう。過去のしがらみは廃棄処分だ。ポストモダンの政治は心機一転、
効率的に儲かるビジネスといこうじゃないか。(と高笑い)

議 長 それでは皆さん。賛同に代えて乾杯しましょう。ハイパーコープの勝利に、資
本主義の平和と繁栄に対して。(と立ち上がり、グラスをあげる)

全 員 結構。(とみな立ち上がる)。我々の平和と繁栄に乾杯。宇宙は我々のものだ！す
べて我々のものだ！(とグラスを高らかと上げる)

議 長 我々の市場に乾杯。(と着席)では皆さん。次は新秩序(New Order)の建設に伴
う各社の出資割合と行政システムの移管について。まず月ですが……。

——幕——



余話として—歴史

● “大破壊” — 待兼音次郎訳「年表」『エクリプス・フェイズ：クイックスタート』より

○ 地球国家間の緊張関係が高まりつづけ、ついには公然たる敵対、そして戦争へとエスカレートする。

○ ティターズが正面切った攻撃を開始したことで、とてつもない規模のネットワークが勃発し、主要システムがいくつもクラッシュする。その際ティターズは、自律型戦争兵器をも投入した。

○ 戦争はたちまち手に負えないものとなる。核兵器、生物兵器、化学兵器、デジタル兵器、ナノテク兵器が投入されると、あらゆる陣営から報告が上がる。

○ ティターズが、人間精神の大量かつ強制的なアップロードに取りかかる。

○ ティターズによる攻撃が地球から太陽系の他の領域へと拡大し、とりわけ月と火星では激しいものとなる。数多くのハビタット（居住地：引用者注）も陥落する。

○ ティターズが突如として太陽系から、数百万ものアップロードされた精神とともに姿を消す。

○ 地球は破壊の限りを尽くされ、放射能汚染地域や不毛地帯がまだらに広がるばかりとなり、廃墟がぼつりぼつりと残るばかりの荒れ野には、ナノスウォーム（ナノテク兵器：引用者注）の雲、うなりを上げる戦争兵器、その他得体の知れないもの、物陰に潜むものなどが散在することとなる。

註

「歴史に if はない」という言葉があります。しかしまた、パラレル・ワールドをイメージできない歴史学というのもまた、ありえないのではないのでしょうか。しかもこの if は、ちょうど小説が、音楽が、映画が、およそ時間の芸術一般がそうであるように、かならずしも同時進行ではなく、時系列に沿ってわれわれの前に現れ、最初の if をまったく別のかたちでやり直すこともできる。そして、およそ日本的ではない「江湖」(※) の思想もまた、歴史上、三度のせり上がりを見せ、いま「こういう波の下の方にある」わけです。

歴史はただ右肩あがりに進歩する、という呪縛から解放されたとき、「江湖の流行曲線」のような時間感覚を持つことが必要なのではないのでしょうか。もちろんそれは、いま目前にある喫緊の課題を放置してよい、ということでは決してありません。そうしたリアル・タイムの問題に敏感に反応する感性とともに、もうひとつの時間感覚を研ぎ澄ませていく必要がある。歴史学の使命もまた、そこにあるのだと思います。

(※江湖【ごうこ】：人々が身分や職業にとらわれず自由に交流・議論するのを尊ぶ中世思想。引用者注)

—東島誠の発言 from 「第六章 戦後篇」東島誠・與那覇潤『日本の起源』太田出版、2013年